明治四十一年五月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百二十二號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百貳拾貳號目次

大日本婦人衛生會

六月例會通知

來る六月六日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一　演題未定　醫學博士　岡田和一郎君

一　身體及び其保護（續）　ドクトル　富士川　游君

當日は本會總裁宮妃殿下の御臨場を仰ぎ奉る筈に付き此段謹みて會員各位に告ぐ

明治四十一年六月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみなして足れりとするにはあらずかならずや智識を開き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆とし希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいと緊要の事にして特に婦人のもつばら學ぶべき所其責任と云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども其の衛生の事に至りては更に注意をなさゞるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志の婦人集ひ謀りて一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會と云ひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上の談話を乞ひ互に相研究し倘之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月　　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり　●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く　●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得　●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續は末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし　●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上、特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす　●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし　●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得　●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず　●第九條　本會に排殿員を況き其中より總裁一名を置き皇族の妃殿下に願出るものとす　●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名　●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合により會員外の婦人若くは男子に囑託することあるべし　●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は會長の諮問に應じ本會の事を評議し書記は役員の命を受け記錄雜務を掌る　●第十三條　幹事は編輯出版の事務を掌り評議員は臨時缺員ある時は之を補缺す役員の任期は二ヶ年とす　●第十四條　役員は名譽職とす但書記には相當の報酬を給す　●第十五條　總會は毎年三月に之を開き常會は八九月を除くの外毎月一回之を開く　●第十六條　總會に於ては會務の報告及會計の決算を爲し役員の選擧等を行ふ　●第十七條　常會は學識經驗ある人々を招き衛生に關する講義演說を聽き又は會員相互に研究の爲め談話をなす　●第十八條　常會には會員の家族及知人を同伴することを得但婦人に限る　●第十九條　會員總會に出席し議決に加はらんとする者は必ず本人たるべし　●第二十條　會員總會に於て本會規則の改正を要する時は出席者三分の二以上の同意を得べし　●第廿一條　本會の經費は會費及寄附金を以て之に充つ　●第廿二條　本會の會計は毎年三月の總會に於て其決算を報告すべし　●第廿三條　本會の會計は幹事中より一名之を擔當す　●第廿四條　會計は會費其他の收支を明記し毎月一回之を會長に報告すべし　●第廿五條　本會の收支決算は評議員三名以上の檢査を經て總會に報告すべし　●第廿六條　支會は會員五十名以上ある地方に於て本會の認可を受け之を設立することを得其規則は本會に準じ支會長之を定め本會の認可を受くべし　●第廿七條　支會の會員は本會の會員と同一の權利を有す　●第廿八條　本會雜誌に付ての規定は別に之を定む　●第廿九條　本會に寄附をなさんとする者は姓名及物品の品目を記し本會に申込むべし寄附者の氏名は雜誌に揭げて謝狀を贈る　●第三十條　本會の會員又は會員外の者にして本會雜誌を購讀せんとする者は一ヶ月金拾錢を以て之を送付す　●第卅一條　會費は毎月又は數ヶ月分を前金にて納むべし　●第卅二條　會費は東京府下に限り毎月本會事務所の集金人をして之を受取らしむ地方會員は總て郵便爲替又は郵券を以て送付すべし（郵券送付の場合は一割增）●第卅三條　會費を納むるものには受領證を交付す　●第卅四條　本會員中若し本會の體面を汚す如き所爲ある者又は會費を怠り催促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田徳子
同　高木かう子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敬子
評議員　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穗積歌子
同　土肥多越子
同　緒方悦子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武稀枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
評議員　山口貞子
同　子爵夫人　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下吹子

●支會、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
色川圀士君
醫學博士　伊東祐彦君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
赤十字社内科部長　岩井禎三君
醫學士　石原久君
醫學士　野瀬雄一君
醫學士　石原喜久太郎君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原四郎君
醫學博士　芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟　長谷川一詮君
小兒科　小原新之君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　林春雄君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　緒方正規君
步兵中佐　堀内文次郎君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　岡田和一郎君

醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西克知君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
醫學士　渡邊功吉君
男爵　加藤弘之君
醫學博士　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅景君
醫學博士　櫻田龜一郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　笠原光興君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　河野衞君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齋君
醫學博士　高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟病院長　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋貞而君
藥學博士　田原良純君
醫學士　田村光頤君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學士　米山彦郎君
二等軍醫正　星野篠光君
醫學士　宮本叔君
三等軍醫正　横井忠國君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　長與稱吉君
男爵　南部甕男君

藥學博士　長井長義君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學士　黒田玄通君
醫學士　栗本庸勝君
海軍中佐　小笠原長生君
醫學士　村松洪三君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學博士　山田鐵三君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
岡山　山川春二君
衛生試驗所技手　丸山長四郎君
ドクトル　松山陽太郎君
ドクトル　此木信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　古川榮君
東京　布施正顯君
南滿洲鐵道總裁　後藤新平君
元帝國大學教授　エ・ベルツ君
醫學博士　甲野棐君
文部書記官　寺田勇吉君
醫學士　寺田豐作君
醫學士　寺田織尾君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寛君
ドクトル　新井古方君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷全次君
產科婦人科　水原漸君
ドクトル　久保田誠欣君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
醫學博士　朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　吾妻勝剛君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君

ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　榊順次郎君
醫學博士　榊保三郎君
醫學士　佐藤得齋君
醫學博士　櫻井次郎君
醫學博士　桐淵篤次君
醫學士　北村楠造君
醫學博士　北島多一君
ドクトル　北川乙治郎君
醫學博士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學博士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　日高昂君
ドクトル　須田卓爾君
醫學士　濱川德君
醫學博士　木村德衞君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　笹川三男三君
醫學士　波多野楙君
醫學博士　吳秀三君
ミス　リツテル
ミス　ヒユース
ミセツス　コーツ
ドクトル　菊池新一君
醫學士　橋本左武郎君
醫學士　鳥居作祥君
醫學博士　土田卯三郎君
ドクトル　佐藤運雄君
ドクトル　西山信光君
醫學士　澤崎寛制君



身體及其保護（續き）

ドクトル　富士川游君講演

是まで私は人間の身體のことに就て御話を致して、さうして其身體をどう云ふ風に保護すれば宜しいかと云ふことを續けて述べて居りましたが、今日は其身體の中の神經系統のことに就て御話を致さうと思ひます。

神經系統は、御承知の通り、腦と脊髓と神經と斯う三つのものから出來て居りまして、其腦と云ひますのは、御承知の通り頭の中にあるもので、脊髓は脊椎骨の管の中、神經は身體中、何處にでもあるのであります、腦と脊髓と神經とを一括して、神經系統と名けて居る、此ものはどう云ふものであるかと申しますれば、是は我々が何か考へるとか、或は痛いとか、痒いとか云ふやうな精神の働きを掌つて居る所の一つの道具で、神經と申しますのは、外部から來た刺戟を腦の方に持つて行く、恰度電信の針金のやうなもので、刺戟は其電信の針金に傳はつて腦に行くのであります、一番初めの働きは感覺と稱へて居るもので、物を感じるのであります、さうして其感じたものを集めて色々な精神の働きが出來る今日は其の中の唯一部を御話致して置きたいと思ひます。

神經とは、是まで御話しました、心臟とか肺臟とかそれから消化器とかいふやうな色々のものゝ中で一番大切のものであると云ふことは、能く分つて居りますが、他の身體の多くのものとは違つて、一度無くなると再び出來て來ない、是は此前にも御話をし

て置きましたが、人間の身體の中で餘り大切でないものは一度無くなつても又出來て來るたとへば筋肉と云ひますものも一度取つて除けましても矢張其後から同じやうに出來て來る、骨の折れた所は又其骨が出來る、モツと下等の動物になると全くはなれた他のものを持つて行つても附く、けれども神經系統は一度無くなつたら出來ぬのであります、神經と云ふものが人間の身體の中で最も細かに出來て居つてさうして働きの極く貴いものであると云ふことはそれで分る、さう云ふやうな貴いものでありますからして、之を保護致しますことを怠ると種々な病氣が起る、それで今日はその保護の事に就て、一つ二つの要件を御話して見やうと思ふ。

第一番目に、此神經系統は、殊に腦を保護する上に於て必要なることは睡眠といふことがあります、さうすると一體人間はどの位眠れば宜いと云ふ問題が起るのでありますが、全體子供は長く眠る、生れたての子供は夜の間十二時間眠る、晝の間も大部分は眠るのであります、三歳位になると十二時間眠ります、十二三歳位になると九時間眠る、二十歳頃になると大抵八時間眠る、通常大人は少なくとも八時間は眠らねばならぬ、此の如く生れたての子供は夜だけでも十二時間眠る、大人でも人間の一生涯の中に凡そ三分の一は寢て暮すのであります、この睡眠といふことが、神經系統を保護する上に於て大變な必要でありますが、けれどもそれも人々の身體の工合によりて、さう眠らなくても宜い人もあります、名高い人でナポレオンと云ふ人は、四時間か五時間位眠つて濟ましたといふことであります、獨逸のフレデリツキ大王は四時間、それから英吉利のウエリントンと云ふ大將は、四時間、さう云ふ風に極く僅かに眠つて濟む人もありますけれども、通常の人はさうでない、前に御話した通り少なくとも八時間は眠る、又さう眠らなくてはいかないのでありますが、西洋では昔から人間は一日二十四時の中八時間働いて、八時間休んで、八時間眠ると云ふ、昔からの規則さ

して行はれて居る、是は間違ない所で、少くとも大人は八時間眠らなければならぬ、それから神經質の人、極く鋭敏の人、それから貧血質の人は、これよりも餘計眠らなくてはいけない、それから男子と婦人とを比べますと、婦人は男子よりも餘計眠らなければならない、西洋人は大抵少くとも三十分乃至一時間ほど男よりも餘計眠らなければならぬと言つて居ります、働く人も餘計眠らなければならぬ、まづ十時間位は眠らなければならぬ、凡そ八時間、モッと餘計眠られれば眠つた方が宜い『夜早く寢て朝早く起るべし』と云ふ諺があるが、是は早く寢て早く起きなくても、詰り相當の時間を眠らなければならない、暗い所で眠らなくても眠れるのでありますから、唯長く眠ると云ふことが宜いのであります、それから學校に行く子供は大抵十時間眠らす必要がありますから、是は早く寢所に入れて一定の時間を定めまして、起きます時は他から起さない方が宜いのであります、遲くなつたから起きろと云つて側で騷いで起すのは宜くない、是は學校が九時なれば一時間前に起るやうに、其時間を測つて早く寢さす必要がある、これは子供の身體の保護に大變に必要なことであります、叩き起すと云ふことは宜くない、大人でも叩き起すと云ふことは宜しくない、ナポレオンは一定の時間に眠つて一定の時間に起ると云ふて、枕頭に目醒時計を置いて自分で起きたといふことでありますが、さう云ふ風なことは自分で極めてやればよろしいのであります、それから晝寢と云ふことは日本の人は大層嫌うやうな傾きがあります、晝寢をすると云ふことは大層評判が惡いのでありますけれども、しかし晝寢すると云ふことは身體のために宜い、殊に精神の働きを靜かにするには勸めて晝寢をさしても宜いのであります、重に食事の後凡そ二十分か三十分、多くとも一時間位の間、晝寢をすること、腦の働きを休ませると云ふ上に、極く必要なことであります、眠ると云ふことに付て、さう云ふ風なことがありまして、さうして其眠ると云ふこ

とを妨らるゝと云ふと、どうなるかと云ふに是亦大變に害があります、我々人間は眠れない位害のあるものはない、動物でもさうでありますが、睡眠をさせないと、物を食はさないより其害がまだ酷いのであります、西洋の學者が學校の生徒に付て記憶力を試驗して見たことがある、例へば八時に眠る人があつて之を三時間程後らせて十一時頃眠らした、さうすると記憶力は半分に減る、六時間程睡眠をさせないで置くと百の問題を出しても四十まで返答が間違つて、餘程記憶力が減つて來るのであります、それに反して食物をたべさせず、三日位空腹になつて居つても記憶力には左程酷だしき影響はない、是は獨逸の精神病學大家のワイガントと云ふ人が試驗をして見たのであるが、詰り空腹にしたよりも、眠さない方が精神の働きを酷く害するのであります、それから今度は不眠即ち眠られないと云ふ病氣の御話に移るのであります。

眠れないと云ふことは、病氣で起ることと、それから病氣の外に例へば腹工合が惡いとか、腹が痛むとか云ふやうな時に起きて來る、それから食物の關係、或は珈琲とか茶とか云ふやうなものを餘り飲過ぎるとか、さうして便祕して大便が出ないと云ふ場合、それから矢張同じく諸方に何か痛みがする、精神に何か故障があつた場合、何かものを考へるとか或は怒るとか、或は餘り悲しむとか、或は近所が騷がしいといふ場合には眠られない、それから部屋の加減で眠られないこともある、又病氣の場合は、精神病、神經衰弱と云ふもの、或は腎臟病、心臟病など、種々の病氣がありまして、其病氣になつて夜能く眠られないと云ふことがあります、精神の保護をしますに眠ると云ふことが今御話した通り大變に必要なことでありますから、若し眠れないと云ふことがありましたならば、其原因を能く調べ、或は醫者の診斷を受けて早く其治療をしなければならぬ、今御話した通り、食物を斷たれたよりも眠られない方が、身體を弱らすことが一層甚しいのであります、

不眠と云ふことには餘程注意をしなければなりませぬ。

それから、眠ると云ふことに付て附加へて矢張精神の保護のことに付て御話したいと思ふのは夢のことであります、一體夢と云ふものは餘程妙なもので、學問の方で研究したことには面白いことがありますけれども、私が今御話するのはさう面白い御話をするのではない、唯夢と云ふものは、今腦の保護をしますと云ふ上に於て、餘程注意せなければならぬと云ふことを御話する、さて夢はどうして起きるかと云ふと、腹の中から起きる場合もある、又外部から起る場合もある、外部から何か音がするとか、或は何か身體に觸れるとか云ふ場合、是は今私が御話することに必要はない、私が御話するのは身體の内から起きる夢でありまして、身體の内から起きる夢には種々ありますけれども、是は心理學の方で、之を二つに分けて居ります、神經が刺戟されて起きる夢と、精神の内で起きる夢で、神經が刺戟されて起きると云ふは、五官、身體の感覺の方へ傳はつて來ます、それから腦の中で起きる夢は、是は大部分は視感から來るのです、それからモウ一つは身體の内の生理的關係で以て、身體の内の血液が變つて居る工合から起きて來るものもあります、それで男と女と夢を比べて見ると大分違つて居りまして、男子では大抵百人で五十人夢を見ます、婦人は大抵七十五人、詰り男と女と比べると婦人の方が夢を見ることが多い、それから何か物の色に付て夢を見る場合は婦人と男で比べると男の方が倍少ない、それからして何か感情が非常に昂まると云ひますか、非常に怒るとか何とか云ふことは大抵女子が百人に八十、男が百人に五十、さう云ふ風に男と女とに依て夢の出來工合が違ふ、今御話したのは男と女と比べたのでありますけれども、全體の夢に就て御話しまするこ感情にかゝつたものが非常に多い、精神の働きの中には感情の他に意思と云ふものと、智力、智惠と云ふものがありますけれども、夢は智惠の方の關係は

殆どないと云つても宜い、詰り智力のことは夢に出ることは殆どないと云つても宜い、あると云ふのも極く僅かであります、人間の智恵と云ふものは因果の法則でありますけれども、何か一つの事柄がありまして、其事柄が頭腦の中に這入りました時には、是は斯う云ふ原因からなつて此結果が出來たと云ふことを頭腦の中で考へる、夢ではさう云ふことはない、何か一事件が起きた場合に、頭腦の中で是は斯うして出來たものだと云ふことの原因と結果とを考へると云ふことは人間の智力のある證據でありますが、夢では斯ういふことは偶にある位であります。

それから夢の意思でありますが、人間の意思と云ふものは大抵極つたものでありまして、此意思と云ふものが極つて居つて、一人前の人間になりますと意思があるが、夢には意思と云ふものはないのであります、其意思のないと云ふのは注意とか或は考へとか、或は決心とか云ふことは更にない、それは溫厚德實の君子でも夢では他人に惡いことをするとか、サン〲の事をやることがあるのであります、夢の大半は皆感情と云つても宜しい、今御話した、意思と智力は殆ど除けて、夢の世界と云ふものは殆ど感情であります、そうして多數の夢を勘定しますると其大抵は不快の夢であります、心持の良い極く愉快な夢は少ない、感情の中でも不快の感情が多い、夜能く寢まして部屋が巧く暖かくつて食事をして寢た間が極く寢都合が良くて、極く安眠が出來て呼吸の妨げがない極く寢方の良い時には醒覺時に曾て實見をしないやうな愉快な夢を見ることがあります、是は後に御話しますが、夢に現はれますのは大抵感情で而も不快の感情であります、或場合に愉快な夢を見ることもある、この事に就ては色々研究した人があるが、其大略を御話しまするど、起きて居つた時の感情と夢で見ます時の感情に連絡がないことが多い。

第二には起きて居つた時の感情が夢の中に度々繰返される、其繰返されると云ふことを調べて見ると怖

いと云ふことは繰返されるけれども喜びの夢は少ない、大抵男では七人に付て一人、女では五人に付て一人とかいふ風で、喜んだ夢を度々見る人はない、それからモウ一つは人に同情を寄せる夢も極く少ない、唯不思議なことには白痴の人は喜ぶことは夢の中に出しませぬけれども、怒つたことは能く出す、それから是は少し不快なる例でありますが、一寸御話すると、悪い事をした人間、卽ち犯罪をした人間たとへば人殺しをした人間は、此犯罪の有樣を夢に見ることは殆どないといふことであります、それからモウ一つは、醒めた時の感情が習慣になつてドン〳〵出て來る、是は長く續いた感情でなければいけない、是は男では三人に一人、女では五人に一人、晝の感情を夜の夢にドン〳〵出す人はヒステリー、神經衰弱と云ふ人には澤山あります、デ今御話した所を以て御解りになつた通り、感情が餘り強いと夢には顯はれない、晝の間の感情が強いと云ふと夢には出ない、例へば非常に怒るとか、非常に喜ぶとか非常に悲しむとかするとそれは出ないのであります是は餘り精神の働きを強くすると、精神が衰へ、神經作用が衰へるからであります、モウ一つ續けることはそれは六ケしいのであります、さう云ふやうな夢は男は三人に一人、女は五人に三人、起きて居つた時の感情が反對に出ることがある、非常に悲しんだ時に嬉しい夢を見ることがある、斯う云ふ風な夢の出方は健康の人にはないと云つても宜しい、若しあつたならは多くは婦人に多い、ヒステリー、ヒポコンデリー、それから神經衰弱、さう云ふ風な神經の弱つた人にあります。

夢と感情との關係は是で大體御話したのであります餘り感情が強いと云ふと、其事が夢には出て來ないと云ふことが主なるのであります、さうして其夢は前御話した通り腦の中から出て來るやつと、それからして五官の方に來るやつとある、其何か神經が刺戟されて起る夢とある、何ちらにしても夢は眠りの淺い時でなければ判然出て來ないのでありますから

其夢の中でも目に關係した夢、耳に關係した夢、鼻に關係した夢、それから口に關係した夢、色々な夢がありますが、其中で一番能く見るのは前にも言つた通り、目に關係した夢でありまして、全く醒めて居つた時に色々な物を見たと云ふことが幾らか夢になると云ふことは分らぬのでありますけれども、通常百の夢の中で八十位は大抵目に關係して居る、色とか建物とか見るのでありまして、鼻の方に關係した夢は百に付て六つ位しかない、それで以て起きて居つた時に何か經驗したことが夢に出ると云ふことは分るのでありますけれども、起きて居つた時の感情と夢の感情とが必ずしも連絡して居ると云ふことはない。

それから夢は今御話した通り、淺く眠つた時に見るのでありますが、併し此深く眠つた時と、淺く眠つた時に見ます二つの夢には著しい差があります、極く古い、今から五年も十年も前にあつたと云ふ昔の事實を夢の中に見ます時は深く眠つた時でなくてはいけない、淺く眠つた時に見ます夢は眠る少し前に殆どあつた夢であります、それで精神病があるとか、或は神經病があるとか云ふ風な人であつて、平生能く眠れないと、晝の間頭腦の中で起した所の感情が直ぐ出て來る、斯う云ふ風なことは是は特別の病氣の場合に付て現はれるのであります。

前に御話したのは健康の時に付ての御話をしたのでありますけれども、十分に眠ることが出來ない精神病、神經病などでありますると色々日中頭腦の中に感情を起しましたことが夜の夢の中に這入つて來る晝の中に現はれた事實が夜になつて又直ぐ出て來るのであります、それでありますからして古いことを夢に見ると云ふことは、夢と云ふものはさう云ふ風なものであつて、今御話した通りに睡眠に大變關係がある、病氣に付ては、病氣の徵候になる夢がある、又病氣の前兆になる夢がある、斯う云ふやうな夢を別ける人がある、一體夢と云ふものは前御話した通りに色々腦の中から出るとか、又五官へ傳はつて來

た夢とありますけれども、醫學の方で研究して見ると身體の中の原因と云ふものは大抵次の通りであります、第一熱病、其次は頭の中に充血をして居る人それから心臟病、腸に寄生蟲があります人とか、それから腹の中が廣がつて居る人、夜長く起きて居る人、頭腦を働らかす、精神過勞、それから婦人でありますと生殖器の方に變化があります、殊に月經の際であります、斯う云ふ風に身體に一種の曰くがありますと、夢の出來工合が大變變つて來る、之も詳しく御話する必要もありませぬが、西洋では之れを調べた人がありますが、消化不良でありまするとも大變味が惡い夢を見る、それから熱病がありまするとも日本で能く申しまする魘はれる、非常に苦しい夢を見る、それから呼吸氣病があつた時には呼吸が難儀な夢を見る、眼の病氣があつた時には見る夢を見る、それから出血などがあつた場合には血に關した夢を見る、全く睡眠が巧く出來ない主な原因となつて、大部分は現在に近い事、其感情を夢の中に出して來る、デありますからして夢の中を調べて見ると、病氣の前兆、どう云ふ風の病氣が來るかと云ふことが殆ど知られないこともない位に著しい夢が出ることがあるのであります、それから精神病でありますと是は夢は著しく出て來ることがあります、夢を以て殆ど判斷の付く位であります、近頃の醫學の方では夢を以て病氣を診斷すると云ふことには重きを置きませぬ、又さう云ふことはしなくても宜しうございますけれども、精神の衞生、神經系統の保護をしますのには、睡眠と云ふことが主なる條件、睡眠を侵されますると、夢と云ふものは素人にも分るやうに種々現はれて來ますから、これに注意して身體の衞生をすると云ふことが必要であらうと思ふのであります。

叢談

卒中の話

醫學士Z、H、君

卒中なる病は其名の示す如く、多くは突然卒倒して其儘往生を遂げるか、或は生命丈は取りとめても後に手足や言葉に不自由を殘すか、何れにしても多くは瞬く間に慘害を蒙ること、恰かも電車や汽車の衝突の爲め、生れもつかぬ不具者となる樣なものである。之は腦血管の破裂に依て腦出血を起すか、又は腦血管が變化して血液を通し易くなつた爲め多量の血液が血管外に浸出するか、或は心臟病の結果其組織片や血液の凝結物が血液循環内に遊浮し、之れが腦血管の細い部分に行ッて血管腔を閉塞し其周圍の腦の貧血を起す結果である。何れ病と名の付く以上、之は愉快らしい之れなら一寸試しに罹ッて見たら面白かろうなど〻云ふ道樂病はないが然し病の種類は實に千差萬別で、生命に對する輕重や、治療上に於ける難易の在ることは述べる迄もない。俗世間で業病とか不治の病と云ふことを聞くが、醫學上何れの病が業病であるかは甚だ曖昧であるけれども彼の癩病の如きは慥に業病なるもの〻一ッで、當人は何時罹ッたかトント氣の付かぬ間に、病勢は時々刻々旺盛となり、己れ注意する頃は已に世と斷つべく餘儀なくせらる〻時である。又先には碩學兆民居士を斃し、今又財王岩崎男をして幾千萬の財寶も施すに道なからしめた彼の癌腫や、之れに近き肉腫などは、其經過に於てこそ雲泥の差はあれ不治の病たるに於ては異なる所がない。其他、肺結核の如き、後期の黴毒の如き、餘り難有からぬものであるが。然し癌腫肉腫などを除いて、癩結核等は幸にも特種の病原菌が發見せられて居るから、豫防や治療は全く望みの無い譯ではない。然るに卒中には別に一

定の病原菌なく、何時如何なる場合に襲來するやも容易に定め兼ねる所から、豫防上非常に困難なるのみでなく、治療も殆ど絶望にて、加之時には全く不可能故、患者自己の最大不幸なるは勿論、之が家族たる者の心痛と骨折は誠に筆記に盡し難いのである。故に余は卒中の原因、症狀、竝に療法等を述べる事とした。

卒中の原因 古來未だ醫學の發達せざる時代に、病を皆神罰に歸したのは世界各國何れも同一であるが。十八世紀の終頃より、卒中は腦血管破裂し、其結果出血を起し、腦の一部を破壞するか、或は壓迫して腦作用を不充分ならしむるにあると云ふことが明瞭となツた。一體、人間の各器官は、腦と云はず肺も心臟も胃も腸も皆各〻一定の血管の分佈によツて養はるゝものであるが、殊に腦は精神作用の器官だけあツて血液循環も亦甚しい。然し、なぜ腦血管の破裂が他の部分に比して多いかと云ふ問題の說明は甚だ重要ではあるが專門に亙るから省略し、玆には腦出血の原因を述べる。

何事によらず、原因には種々の別がある。事は敗るる時に敗るゝに非ずして、已に敗るゝ丈の原因がある。一を遠因とすれば他は即ち近因で、卒中の原因も大別すれば二ッとなる。一は腦血管を破裂し易からしめし原因、一は直接之を破壞せしめし原因で、後者は所謂腦出血の誘因である。例へば罅裂の出來た茶碗は、用ひ方によつては瑕物ながら無瑕の者と同じく役に立つが、少し手荒に取扱ふものならすぐ壞れる、即ち先きの罅裂は茶碗の破壞した遠因（即ち眞の原因）で、取扱ひの亂暴は破壞の誘因と見做すべきである、故に此兩者を區別して論ずるのが至當である。

卒中の原因

一、遺傳、患者の年齡
二、所謂卒中質なる體質を有する者
三、一定毒の障碍（酒精、鉛中毒、痛風等）
四、腦底動脈の「アテローム」變性

五、心臓の肥大、血壓亢進
六、慢性腎臓炎殊に萎縮腎
七、不規則の生活、脂肪過多、及び重に血液循環を妨ぐべき要件

一、遺傳●● 卒中が遺傳する、即はち血統を引くことは普く人の信ずる處で、父が卒中にて斃れ、子も卒中を起し、又其兄弟姉妹の或者が同じ病に罹ることは、随分吾々の見聞する所で、醫者も卒中に遺傳の存するを否定し得ない。然し、どれ丈の關係あるかは、人の思ふ程遺傳が重大であるかは茲に明言し兼ねる。又遺傳と云つた所で、必ずしも父の卒中が子に其儘傳はるとは限らない、精神病にも遺傳を三大別して論じて居るが、身體精神の構成及び特異の狀態が、祖父より父に來らずして、却て一代置て其孫に表はれるものは間歇遺傳と稱し、只精神病に係り易き素質のみを子孫に與ふるは癲狂素性の遺傳、又同じ様な疾病を遺傳するもの、即ち母が躁狂ならば娘も躁狂に罹るもの、同一家族に自殺者の累出するもの等の分ちがある。卒中に於ても之と同様に、父が大酒家であつて子は卒中に罹り。或は祖父が精神病、父は卒中、子は又精神病にて斃れる事がある。或人は十七歳の男子が卒中に罹つたとき、其家族を調べた處、母は四十六歳にて卒中にかゝり、祖母も亦尚老年にて卒中に罹つたことを知り、之等の事實から一世二世と代の下るに從て卒中の起る年齢が若くなると云ッて居るが、これには他に原因があるかも知れない。兎も角、同家族は他の健康なる家族の者より罹り易いのは慥かである。然らば遺傳は何を殘すか。此問題の解答は甚だ曖昧ではあるが、破壊し易い腦血管、若しくは破壊し易くなる體質を親が讓ッたものとする。然し酒飲みの親に大酒家の子が出來るのも親と同じ様な生活をなすものが多いから、親を斃したと同じ原因が、又子を斃す事になるであらう。

二、卒中に罹る年齢●●●●●● 人間には病に侵され易い年齢がある、麻疹が子供の病氣である様に、癌や卒中は

老人の病と見做されて居る。經驗上、卒中は四十歳頃から其數を增し、六十歳前後は最頂點に達する。然し之れ必ずしも然らずで、世の文明となるに從て病氣の若返りする譯でもあるまいが、極めて若い者にも癌は發見せられ、卒中も年が行かぬからとて決して安神がならない。是れ迄、小兒の腦出血や、十二三歳又は二十歳前後にも、腦出血や腦血管の閉塞は度々解剖上からも證明せられたのである。尤も年若き者に來るのは後に云ふ黴毒、腎臟病又は心臟病などが重なる原因をなすものである。

三、●●●男女の差　男女兩性に左程大差がないと云ふ人もあるけれども、一般に男に多い。之は男は酒、煙草、黴毒等の原因が、女より多いのと、外に在て活動するの結果直接誘因となるものに接する機會の多い爲めである。

四、●●●●時候の關係　春と云はず秋と云はず、原因と誘因さへ揃へば、何時に限らず卒中は起り得るが、春陽一來萬物の氣を引き立たしむる頃に精神的犯罪の數が增すが如く、卒中も外界の時候の影響を蒙るが最も多いのは夏であると云ふ事である。一日中では午前は二時より四時迄、午後は三時より五時迄。之は人間の生理的作用も一日中多少の變化ある樣に、多分周圍の影響を受くるのかも知れない。

五、●●體質　體質と云ふも甚だ曖昧であるが、或病に罹り易い體質、アノ人は此病氣を引き易いと云ふのは、非醫者も經驗上固く信じ、醫者も習慣上、經驗上、可なり重きを此體質なるものゝ上に置て居る尤も、體質のみで診斷を下さうと云ふは無理であるが、少くも大なる補助となる。話が枝葉に亙るが、卒中の豫防上必要ゆゑ、醫學上體質を如何に區別するかを簡單に言へば。即ち腺病質、肺癆質、卒中質及び神經質である。腺病質は重に小兒に見られ、皮膚蒼白、筋肉枯痩、脂肪稍や發育し、顏は浮腫狀を呈し、鼻、口脣肥厚して一見稍や癡鈍狀なる者で、之を遲鈍性の腺病質。之に反し、皮膚蒼白、身體纖細、青筋が蒼白の皮質を透して見え、動作敏捷、精

癖強く、往々淋巴腺の肥大を證明するもの、卽ち鋭敏性の腺病質である。此等は後來肺結核に罹り易い肺癆質は、全身の構造薄弱、羸瘦、頸長く、胸廓狹小、皮膚蒼白く、所謂美男子と稱せらるゝ者。神經質は體格體質及び榮養等よりも、寧ろ其容儀及び行爲上に其特性を表はすものであつて、容貌怜悧、姿勢敏捷で、意志變轉し易く、且つ興奮し易く、又言葉仕へ屢ゝ疾迷なるも、何等の原因なくして忽ち鬱閉し、又猜疑し易きもの。之に反して、吾が卒中質なるものは、身體の構造頑固にて、全身よく肥え、顏赤らみ、頸短く、太く、居頸で、恰かも頭部が肩の直上にある樣に見える。故に一見非常に强健の樣に考へらるゝが、此等の人の中には、往々些少の勞働、僅かの散歩等にも、息切れし動悸を起す、從て自然外出を嫌ふ樣になる。此卒中質を具ふる者は卒中に侵され易く、且つ一般に多血質である。

六、生活方法　人體の唯一健康法は、適當の食物を適度に食ひ、且つ適度に運動するにあるのであるが彼の富豪は過剩の榮養物を取るに反し、運動は甚だ少く、從て體の脂肪肥滿を來し易い、こは飽まで食ひ、飽まで眠る彼の豚や、目方を付けて高く賣らふとする慾張り商人の爲め、多くの餌と共に終日籠の中に檻禁さるゝ鷄の丸々と太るのと大差はない、此の脂肪過多は矢張り卒中に罹り易い體格となすものである。其他、不規則なる生活、過激なる仕事、精神の過勞、何れも卒中の直接或は間接の原因となる。（以下次號）

百日咳の話

醫學士　河野衞君

茲に私は、百日咳の事に就いて少し御話し致そうと思ふのであります、百日咳といふ小兒の病氣は隨分多くある病で、田舍でも、都會でも、百日咳に罹る小兒は、中々多う見受けます、此の百日咳といふ名稱は、我邦の俗稱であつて、經過が非常に長くて、

百日に及ぶといふ意味であります、百日咳は隨分古くからあつた病でありまして、室町時代に於て、小兒咳逆が流行したといふ、事が歴史に載せてありますが、此れは今日の百日咳であつたのであるといふ事であります、支那では、明の代に及んで、始めて、頓咳といふ名稱を用ひたが、是れも矢張り百日咳の事であるそうであります、それから、西洋の事物を見ますと、十六世紀十七世紀の頃から、特立の一疾病であるといふ事が認められて、それ以來方々で流行するやうになつて來たといふことが載せてあります。

百日咳は、傳染する一つの疾病でありまして、一種固有な咳嗽を發し、而かも、此咳嗽は、極めて、長く續き、容易に治らぬ性質を以て居ります、又其咳嗽を、普通の呼吸器の病に發するやうな性質のものでは無くして、非常に烈しい咳嗽であります、それ故に、咳をして居る模樣を見ると、如何にも慘烈で、小兒の苦悶する狀況は、實に憐れなものであります。

私が、百日咳の御話を致します主旨は、主に、其恐るべき所と、豫防法と、それから、百日咳に罹つて居る小兒の看護法とを申し述べたいのでありますが、先づ、順序として。

百日咳の症狀

を極く簡單に申しましよう、百日咳の病毒に感染してから、本病を發する迄には、一定の時日があります、此の間の時日を潛伏期と申します、これは大抵十日間位であります、早いのは三四日、遲いのは十二日位の事もあります、卽ち、病毒に接觸して、感染してから、十日位も經過すると、始めて、固有な咳嗽をするやうになります、先づ初めの間は通常の咳で、氣管枝加多兒の時のと少しも違はぬ咳嗽を發し、時としては、少し位熱のある事もあります、此時には、百日咳の始めであるか、どうかといふ事は中々分りませぬが、併し、百日咳が流行して居る場合、又は近所で既に百日咳に罹つて居る小供のある

時には、之れに疑ひを措かなければなりませぬ、さて、上に申し述べたやうな咳嗽が一週又は二週日も續くと、段々に烈しくなつて來て、今度は、固有な咳嗽に變じて參ります、其れを、一度其模樣を見たものは、決して忘れられぬ固有な趣を呈して居るものであります、そうして、其咳嗽は、殊に夜分に多く出て、之れが爲めに、小兒の睡眠が妨げられ、時としては、飲んだ乳や、食物を吐く事もあります、咳の時には、非常に苦しみまして、顏が赤くなり、或は口唇が靑くなるのもあります、或は知らず識らず大小便を漏す事もあります、そうして此特異な咳嗽は、二三分間位も續いて、止んで了ひます、之れが一日の間に、幾回となく起つて來て、二十四時間の回數を、一定はして居りませぬけれども、十回から十二回多いのになると、三十回から六十回も起るのがあります、此回數の多いのは、無論性質が惡いのです、此咳嗽が起る前には、元氣よく遊んで居た小兒が、急に、不安となり、遊戲を止め、母を慕ひ恐怖の狀を呈して來ます、そうして間も無く固有の烈しい咳嗽を發して來ます、それで此咳嗽の起るのは、自然に起る事もありますが、精神の感動があると忽ち起つて來ます、例へば、喜んだり、怒つたり或は泣くのが動機となつて、咳嗽が發する事があります、或は、百日咳に罹つて居る他の小兒が、固有の咳嗽をして居るのを見て、自分も、咳嗽を發するものもあります、その咳嗽を誠に慘烈で、實に憐れなものであります、斯くの如き固有の咳嗽のある間は、病の最も盛んな時期でありまして、此れが凡そ四週間も續くと、段々に咳嗽が輕くなつて、其固有の性狀を失ひ、次第に普通の風を引いた時の如き咳嗽となつて來ます、そうなると、輕快期に入つたのであります、二三週も輕過しますと、全く咳嗽が出なくなつて來ます、それ故に、百日咳の經過は、通常七週から、十週を普通としてあります、稀には三四ヶ月も掛る事があります、隨分經過の長い病氣であります。

百日咳にも、合併症と謂つて、其經過中に、他の病が起る事があります、或は治つてから後に、起る事もあります、通常肺炎とか氣管枝炎とかいふやうな病氣を起し、或は、結核を發する事があります、まだ其他に色々な病氣を起して來ますけれども、是れは茲では申し逃べませぬ。

斯くの如き合併症が無いときには、都合が良いけれども若しも百日咳に合併症が起つて來た場合には、甚だ危險であります、殊に百日咳は經過の長い、症狀の烈しい病でありますから、之れに合併症が加はつて來ると、愈々重症になりますから、餘程注意しなければなりませぬ。

百日咳の傳播

は直接にも間接にも傳播するものでありまして、患者の呼氣や喀出した痰沫或は喀痰抔から傳染し、或は衣服や、器具や、室の壁等に此痰の附著して居る時は此等のものに觸れると、感染します、それから百日咳には。

如何なる年齡の小兒

が最も多いかと言ふと、それは二歳から六歳の小兒に一番多いといふ事になつて居ります、そうして、一年以下の小兒には餘り多うありませぬ、併し何れの年齡の小兒も侵されるのでありまして、幼稚なる小兒程病氣の性質が惡うあります、百日咳といふ病氣は、一度罹ると、二度と侵される事は、先づ大抵ありませぬ、それ故に、大人には殆んど見ない病でありますけれ共極く稀には、大人も之れに罹る事があります。

貧富であるとか、季節であるとかいふものは、本病に著しい關係を持たぬやうでありまして、夏でも冬でも、之れに侵され、社會階級の上下を問はず、何れの社會の者も、之れに罹るやうであります、百日咳は、大都會では、何時もある病で、其跡を絕つといふ事はありませぬ、或は流行する事もありまするし、或は麻疹と同時に流行する事もあり、他の傳染病に罹つた時に、百日咳を發する事もあります。

百日咳は恐るべき傳染病の一つでありますが、合併症を發せずして、而かも、其小兒が、强壯で、稍や成長したものであると、ヨク治りますけれ共、虛弱で幼稚な小供であると、時としては之れが爲めに死亡するといふ事があります、一歲以下のものには、死亡數が一番多いのは、統計の上から明かであります、それ故に哺乳兒が百日咳に侵されると、甚だ危險であります、その外に、各人の素質、季節、病の性質、衞生的狀况等は本病の經過の上に大なる關係のあるものであります。

是れから私は百日咳の。

豫防法

を御話し申しましよう、前にも申し述べましたやうに、百日咳は傳染する病であつて、而かも、其傳染は、極めて迅速なものであります、それ故に、先づ第一著に、百日咳に罹つた小兒は、速に、他の健康な小兒と離隔するのが、肝要であります、初めの間は症狀が固有でありませぬから、果して百日咳であるか、どうかといふ事は、明かでない場合がありますけれ共、此時期に於ても固より傳染の危險がありますから、百日咳の流行して居る場合には、尙ほ咳嗽を發するものには、或は百日咳になるのではあるまいかといふ疑を措いて、他の小兒と交通をせぬやうに注意しなければなりませぬ、每度申しまするやうに、凡て傳染する性質のある病を豫防するといふには、社會の各人が、眞面目になつて、衞生といふ事を嚴守しなければなりませぬ、百日咳の場合にも他の小兒に傳染させぬやうに、人々が互に注意しなければなりませぬ、學校であるとか、幼稚園であるとかいふやうな多數の兒童の集合する所は、本病の傳播上最も危險な場所でありますから、百日咳に罹つて居る小兒は固よりの事、疑はしき咳嗽をする小供にも、登校する事を堅く禁じなくてはなりませぬ、幼稚園で感染したといふ話しはヨク耳にする所であります、それから、百日咳は咯痰、吐物、呼氣杯から傳播するといふ事は、疑ひの無い所でありますか

らして、患兒の用ひた器具、布片、室壁抔には嚴重な消毒を施さなくてはなりませぬ、是れから私は、

百日咳病兒の。

看護法

に就いて申し述べて置きましよう、それで、百日咳に罹つた小供は、先づ第一に隔離して、別室に起臥せしむるのであります、室内の温度は、列氏の十四五度とするのが最も適當であります、そうして、常に、室内温度は平均に保たれて、變化の無いやうに細心注意するのが大切であります、室内の空氣は新鮮でなくてはなりませぬ、もし多數の病兒の出來た場合には、之れを一室に集めて置くのは宜しくありませぬ。

それから衣服は、季節に應じたものを著せて、可成ゆつたりしたものが宜しうあります、紐や帯抔で、堅く身體を緊縛するのは甚だ惡い事であります、衣服が究屈であると、咳嗽をする時に、ひどく苦しみます、咳嗽をする時には、胸の運動が自由で無いといけませぬ、兎角袖口の細い襦袢や衣服が衣せてあつて、自由に手を出して、著換へをするにも甚だ骨の折れるやうなものを衣せてあるのを屢ゝ見受けますが、斯ういふやふな衣服は、甚だ宜しくありませぬ、そうして、身體は常に温く保ち、百日咳の上に感冒に侵されぬやうに注意しなければなりませぬ。

それから、百日咳に罹つて居ても、他の合併症が無くて、熱も無く、天氣が温くて、晴れて居て、風の無い日には、可成戸外の新鮮な空氣の中に出すのが宜しうあります、併しながら、冷い風、塵埃は嚴重に之れを避け、濕潤に逢はぬやうにしなければなりませぬ、少しでも風に當ると、頸や手足が冷えて呼吸器の疾病に罹り易うなりますから、冬は戸外に出さぬやうにしなければなりませぬ。

それから、轉地療法と謂つて、空氣の清潔な、温暖なる土地に移轉する方法もあります、併しながら、患兒が轉地をすると、所々に其病毒を撒布し、健康な小供に感染したり、或は患兒自己が他の病に感染

することがあるから、轉地は良くないと言ふ學者もあります、然し、注意して、適當なる土地に轉地をすれば、慥に、病の爲めには、宜しいに相違ありませぬけれ共、一體轉地抔言ふ事は、經濟上の關係もあり、又家族的の關係もある事でありますから、種々な事情の爲めに、實行するといふ事は、中々容易な事ではありますまい。

我國では、沐浴が盛に行はれますから、百日咳の患兒は、湯に入れてはどうかといふ問は、屢〻耳にしますが、合併症發熱が無い場合には、注意してやれば、湯に入れるのは差支はありますまいけれ共、ドーも湯に入つた後には、感冒に侵され易いものでありますからして、餘程氣を附けぬといけませぬ、小兒は殊に、沐浴の後は、體溫を奪はれ易いものでありますから、湯に入れるといふ事は、餘程大事を取らぬといけませぬ、溫い室内で、微溫湯で、體を摩拭するのが宜しうあります、幼稚なる乳兒には、日日注意して、微溫の半身浴を行ふて、糜爛を防がなくてはなりませぬ、其他虛弱な小兒には、日日身體を乾燥した布片で摩拭するのであります。

それから患兒の榮養でありますが、此榮養といふ事には、餘程注意しなければなりませぬ、百日咳は、前にも申しましたやうに、經過の長い病氣でありまして、且つ其咳嗽が烈しく、その上合併症を發する事も尠くありませぬから、榮養が非常に衰へて來ます、之れ故に常に滋養强壯の食物を與へて、榮養の狀態を佳良にする事を計らなければなりませぬ、食餌は固形食よりも、流動食又は粥狀のものが宜しうあります、卽ち粥とか、重湯とか、牛乳、ソップのやうなものを與へる方が宜しうあります、殊に幼兒には、此れが適當して居ります、固い食物を與へてはなりませぬ、それから、辛味、酸味、各種の香料のやうな刺戟性の食を與へてはなりませぬ、斯ういふ品は、容易に、咳嗽を起させる動機になるからであります、食餌は、一回の分量を尠くし、數回に分ちて與へるやうにしなければなりませぬ、過食し

て、胃が膨れて居ると、是れが動機となつて、咳嗽を起しますから、大食しないやうに氣を附けるのが肝要であります、食餌は、咳嗽發作の後に與へ、もし咳嗽の爲めに、嘔吐した場合には、咳嗽の終つた後に食を與へて、其嘔吐したのを補はなくてはなりませぬ、それから、餘りに熱いものとか、餘りに冷いものとかいふものは、矢張り咳嗽發作を促し易いものでありますから、是れも與へないやうにしなければなりませぬ、胃と腸との働きが完全で無いと、百日咳の經過も惡しくなつて來ますから、常に食餌に注意し、醫師の指圖通りを守らなくてはなりませぬ、それから前にも申しましたやうに、精神の感動があると、容易に咳嗽の發作を來すものでありまして、例へば怒つたり、笑つたり、泣いたり杯する時には、直に咳嗽を發して來ます、その外突然と脅しい、光線に當るとか烈しい音を聞くとか、或は大食したり、堅い食物を取つたり、冷水を飲んだり杯する時にも、矢張り咳嗽が出ますから、可成小兒を靜かな所に置き、精神を感動させないやうに注意しなくてはなりませぬ、それから、患兒の使つた器具、喀痰の附著して居る布片杯には、嚴重な消毒を行はねばなりませぬ、百日咳は經過が非常に長くて、合併症や後病を發し易うありますから、殊に恢復期に於て、注意しなくてはなりませぬ、是れは、何れの病氣でも同じ事でありますけれ共百日咳では、殊に甚だ必要があります、兎角治り掛けに向ふと、看護に注意しないやうになる傾きのあるものでありますが、百日咳は經過の長いのと、症狀の烈しいのとで、榮養が大變に衰へて來る病でありますから、榮養の恢復を計るのは前も肝要であります、殊に、百日咳は中々早く治り難い病氣であつて、藥が中々利き難うあります、それ故に、始めから、看護といふ事を大事と心得て掛り、可成病兒の苦痛を和げる事に心を致さなくてはなりませぬ、昔から一に看病二に藥と言はれたもので、此病人の看病といふ事は、甚だ重大な事柄であります、藥丈けで病が治るもの

と思ふのは大なる間違ひでありまして、如何に良い藥でも看護の方法が良くない時には、一向效能はありませぬ、百日咳の如き病では、殊に看護といふ事が大切でありますから、玆に其大略の所を御話し申したのであります。

通俗 花柳病談

通俗花柳病談を掲ぐるに就て感ずる所を述ぶ

東京醫科大學皮膚科　笹岡芳名君

凡そ世の中にはいたつきに有る程困り居るものはありませぬ、いかに巨萬の富を貯へて榮耀榮華に暮して居ても、病氣といふものには遂に打ち勝つことが出來ないのであります、たとへ一朝國家に不幸の事があつて外國と干戈を交へねばならぬ場合が出來ても兵卒となるべき者が病氣に罹つて居ては如何に智恵が溢れるほどあつても敗けねばならないのであります、是は皆さんの知己のお方々に病氣で牀に伏せつてお出の方があれば直におわかりになりませう、たとへ其人は學問を仕度くとも事業を起こし度くとも出來得ないのであります。

今の世の中を通觀しますと頗る華美の風、淫靡の風が充滿して國家を弱まらしめんとしつゝある様に思はれますが、是に連れて上下を通じて花柳病が流行して居るのも決して少なからぬ事であります、花柳病が流行して居るといふには幾らも原因があつて今日のような複雜な頭腦を混同して居る社會、とりもなをさず封建時代の敎育と日進月歩の敎育を受けてゐる者との極端と極端に走つた人種間では一般の常識を以て斯學の說明を普及することも困難でありますが又之を防禦する機關の設備も不完全であると謂はなければなりませぬ、おまけに社會の上流に立つて居らるゝ家庭の主人公たるべき人も大なる罪を有せられはせまいかと思ひます。今や結婚した計りの美貌なる夫人は數日を經ずして蒼白き容貌と變り頭痛、腰痛、寸白等は持病となつて漸々身體は衰弱し

容易に子を擧ぐる事は出來ず、苦心して攝生をして漸く妊娠するも月に滿たずして流產するといふ樣なことは、決して少なからぬ事と思ひます、是は單に一例に過ぎませぬが、上流の人々が徒らに己れの富に奢りて蓄妾して其病毒を家庭に媒介し、罪なき最愛すべき義務ある夫人を毒したからであります。

社會の罪は獨り以上の事ばかりではありませぬ、例へて申しますと今日の學者たるべき者は徒らに學閥を作つて理が非でも己れを以て人を推し思想界に立つては渾沌として安心立命をも識らぬといふのがままある樣であります、是等の人は餘りに世の中を上手に手輕く見過ぎたせいか技術には成る程巧みであるが思想界には殆んど墮落して居ると謂てよからうと思はれます、いかに富豪となるも、いかに一世を驚す事業家と成つて成效するも、斯の如き品性の修養に缺けて居るものは恰も紙鳶の風に倚りて宙に飛び、ゴム球の一時瓦斯に浮かされて揚ると同じく一朝雨に遭へば其本態を失するものであります、手近い話が我々醫者の社會にも眞に社會の上流に立ち得る頭腦を有して居る者は幾ら有りませう、私は愚痴な一寒生で有りますが衷心此問題に對しては甚だ懸念に堪へぬのであります、と謂つて醫者仲間は皆そうだといふ譯ではありませぬ、現に我國にも森鷗外、土肥鶚軒、井上通泰其他數多の先生は醫者でもあり又文學者でもあり最も高尚な思想を抱いて居らるゝ人であります、深くは知りませぬが西洋では耳鼻咽喉科中興の祖とも云はれるレルチを始めとし解剖學者のヘンレー、外科學者のビルロート、臨牀家のクスマウル、ヌッスバウムの樣な文學者、ウヰルヒヨウの樣な大病理學者で大政治家で有る人達がなか〳〵多い樣であつて健全なる思想を修養して居られた樣でありますが、顧みて我國でも維新以前には慥かに品格を重じて居た樣であつて醫者と坊主は社會の上流に立つて居つたのであります、それがどういふはづみか今日では文明と共に漸次品格、さりもなをさず思想界の事は退歩して技術にのみ馳つ

て居はせぬかと思はれます。

又學校の制度を見ましても大學專門學校、私立學校の順で大學出の者は多くは己れ以外の學校出の者は己れ以下とし、專門學校出の者は私立學校出の者を己れ以下と心得て居る樣で有ります、何と憐むべき幼稚の思想では有りませぬか、學校に入る者は富家の者ばかりではありませぬ、隨て己れの家の富の程度に從ふて入るものであつて決して下劣なる思想の下に小成に安んずる者のみではありませぬ、兎もすれば私立學校出の者を話せぬなど〻局外にして蔑くなどは了見が違ひはせぬのであるか、例へて申すと私立學校出の人にもなか〳〵侮ることの出來ない高尚な頭を有てゐる人も幾らもあるのであります、斯樣な誤りよりして世の人もつい〳〵片書に迷はされてゐるのが今の時代であつて眞に是等の人々が相供に病を誤り治方を謬るといふ事は屢〻吾々の耳にする所であります是れ卽ち今日の社會の罪といつて良い事と思はれます。

私が今より以後本誌に於て通俗花柳病談を揭ぐるの考へに立ち至つたのは一般の良妻賢母たる皆さん方に本病が如何なる害毒を社會に及ぼしつ〻あるか又花柳病とは如何なる疾病であるかといふ事をお知らせして御注意を拂はれたならば遂には圓滿なる家庭、富强なる國家を維持し延ひては社會風敎上の一助ともならんかと考へましたからで有ります、なべて御夫人方は家庭を良とすると不良とするとには大なる關係を有して居らる〻もので、己れが偕老同穴の契りを結ばれたる主人には絕對的に其責任が有ると謂つて宜かろふと思ひます、それ故今日の社會の程度に於て本病の一般をお知らせするのもあながち無駄では無かろうかと思ひます、で以下號を追ふてや〻系統的にお話致す考へであります、實は本誌編輯人主幹の齋藤さんに此事に就て書面を以つて一寸お相談を致しましたら、是非にといふ御返事がありましたので、筆を起した次第であります、もし是に依つて 私の思ふ一部分が果さる〻ならば本懷の至

りに堪えぬのであります。

活ける家（續き）

醫學士　渡邊房吉君

（十四）活ける家の音樂室

國の東西と世の古今とを論ぜず、何處いかなる國民にも夫れ〳〵固有の音樂があつて、之によつて心を和げ、氣を勵まし、耳を樂しませ、喜怒哀樂の情を發表するものである、樂の調の文であるか野であるか、高雅優秀であるか下劣淫靡であるかは、勿論其國と其民との品位文化の高下によつて異る。が、然し何れの樂器でも活ける家の樂器に比しては、其精巧微妙の點に於て霄壤もたゞならぬのであります。節面白く歌吟ひ、興盡きず語り、相恰をくづして、笑ひ、腸を斷て叫けび、或は千鳥の如く囀り、犬の如く吠へ、或は馬の嘶くに擬し、鷄鳴の曉を報ずるに眞似ることさを得るやうな自在神通力のある樂器は、活ける家の夫れならで他に何處にかあらう。此樂器の据え付けてある處を

喉頭

と云ひ、外から見ても手で觸知て見ても、咽喉のところの隆起て居るものが即ち夫れで、一般に婦人では男子よりも小さい。故に男子が婦人に扮することがあつても、喉頭の部分を見れば容易に其眞相を觀破することが出來る。此喉頭は軟骨から取り卷かれて造られて居る一つの箱のやうなもので、上は口腔を介して外界と通じ、下は氣管に連つて空氣の出入する通路となつて居る。外から見て隆起つて居る部分を通常

アダムの林檎

と云ふ何故アダムの林檎と云ふのか不明であるが、思ふに基督教の舊約聖書に書いてある世界開闢の時の物語りから胚胎て來たものであらう。即ち世界開闢の初めに神はアダムと云ふ男と、エバと云ふ女とを造つてエデンと云ふ樂園に住まわせ、樂園に枝も

たわゝに成熟つて居る菓實は一切食べてはならぬぞと嚴命した事があつた。然るにエバは一日アダムに向つて『良人一つ食べて見やうではありませんか』と云つて、ウカと互に手を出して之を口に入れたが最後、忽ち神の怒りを招き『汝等兩人は何故我が命令を守らぬのか』との譴責に遇つた。ところがアダムは『私が惡いのではありません、妻なるエバが食べろと勸めたものですから』と辯解しながら、隱して置た一つの林檎を愴惶て口に押し入れて嚥み下そうとした、ところが因果と咽喉に引き掛つて仕舞つて、子々孫々に迄傳はるやうになつた

喉頭と口腔との堺に會陰軟骨

と云ふ喉頭の蓋があつて、平素呼吸をする時には開いて居り、空氣をして喉頭内を通り拔けて自由に肺へ至らしめるが、若しも飲食物が口の中へ入る時には早くも閉鎖つて、一片の食、一滴の水をも喉頭内へは入れさせぬやうにする。蓋し喉頭の方へは空氣が入るべきもので、飲食物は食道を傳うて胃腸に至るべきものであるからであります。若し誤つて飲食物が喉頭の方へ迷ひ込めば、急に烈しき咳嗽が出て之を咳嗽き出す樣にする。

喉頭と云ふ音樂室に備へ付けてある巧妙精緻を極めた樂器を

聲帶

と云ひ、其構造は極めて簡單で只二本の薄い小さな白條が前から後ろへ、互に平行して引き張られて居るに過ぎない、呼吸の度毎に空氣が肺から出て來れば二條の聲帶の間を通り、其都度之を振動させて音聲を發しさせることゝ、恰も三絃を彈でゝ樂音を出すのと同樣である、故に空氣の通る際に聲帶が引き締まつて居れば高い音が出で、弛緩んで居れば低い音が出る。

すべて音の高低は絲の緊張の强いか弱いか、絲の長さの長いか短いかによりて異るものであるが、喉頭には九個の小さな筋肉が附いてゐて、此筋肉の作用で或は聲帶の長短を變じ、或は其緊張度をかへ、か

くて千種萬樣なる望み通りの音を發させるものであります。

一管の笛の音は、笛の孔の大さ、振動すべき笛の中の氣柱の長さとに由つて違がふ。人の聲も左右聲帶間の距離の大さと、喉頭内の氣柱の長さに由つて違ふが、前記の筋肉により左右の聲帶は或は近づき或は隔たり、喉頭を上ぐれば氣柱は長くなつて音聲は高く、喉頭を下ぐれば氣柱は短かくなつて音聲は低くなると云ふ裝置になつてゐる。

ピアノでもバイオリンでも琴でも三味線でも、其音を高め、其調を強めるためには音板と云ふものが取り付けてあるが、活ける家の樂器に於ても音板に相當すべきものがある。即ち眼の上の額の骨には空氣を滿たせる空洞があつて夫れが鼻腔と通じ、咽喉及び喉頭は四周を組織から包まれて居つて、何れも音板の働きをなし、聲帶の振動に共鳴して音聲を大きくする、聲の性質及びピッチには夫れ〳〵相違があつて、萬人一樣ではないが、氣管が廣くて短かく、而して聲帶が長い時には其振動が遲くつて

低　音(ベース)

が出て氣管が狹くて長く、而して聲帶が短い時には其振動が速かで

高　音(テノール)

が出る。聲帶の形が小さければ

反對中音(コントラルトー)

更に聲帶が小さければ

最高調の音(ソプラノ)

が出る。即ち二條の聲帶で、最低のベースから最高のソプラノ迄の音が出て、更に口腔と齒と舌と口唇との輔けによつて又樣々に變化する。人の心の一樣でないのは其顔の互に異る樣であるが、聲も亦た人樣々に異るもので、決して同じものではない。蓋し聲帶の厚さ、長さ、太さ、氣管、喉頭、口腔、鼻腔などの大小形狀が十人十色であるからである。縱へて久しく逢はなかつた舊友の其面影は變り果てゝも其聲のみは甚しく變らぬものであります。

聲は活ける家の貴重なる寶であつて、之を以て思想を發表する標徴、言語或は詩や歌となすことが出來る。喜怒哀樂愛惡慾の七情は必ず聲にあらわれる。心に悲しみあれば悲鳴或は啼泣となり、内に喜びあれば笑聲或は歌となる。諺に『やさしき答へは怒りを鎮め、はげしき言葉は怒りを起す』と云ふがあるが、一度び口から出た聲は恰も水中に物を投たやうに必す多少の反響のあるものである、されば舌を動かすには大に注意せねばならぬのは云ふ迄もない。而して

言語は人類唯一の所有物

で、草木禽獸蟲魚には言語と稱すべきものが無い。聲の良いか惡いかは顏の美しいか醜いかと等しく、或度迄は先天性のものであつて、生來玉を轉ばす樣な美音を持て居るものは、聽く者をして陶然として醉い、恍惚として神を失はしむる迄の勢力を及ぼすものである。比喩が適切で、首尾の一貫した名論卓説であつても、惡い低い錆た餘音のない聲で之を論述しては、聽衆を動かすべき力に乏しい。故に吾々は生來の聲の良い惡いに拘はらず、心掛けて練習し強い良い調和した大きな聲を得る樣につとめねばならぬ。第一に

あらゆる言語を明瞭に發音する

樣に心掛くるが肝腎で、ピアノ、バイオリン、オルガン、琴、三味線の樣な絲竹の道に志すと同樣に聲の練習は必ず怠るべからざることである

精神が高尙純潔でなければ其聲も

亦玲瓏優秀

でない。故に品性の修養と精神の訓練とは、明瞭なる聲をうるに必要である

全身が强壯完全でなければ良い

聲は出ぬ

身長の低い、胸廓の狹い、口腔の小さな優さ形の人からは斷じて美聲を聽くことは出來ぬ。聲帶及び口腔喉頭等は絶えず多少の水分を持たねばならぬ筈であるが、酒類及び煙草などは之を乾燥させてよろし

くない、胡椒、唐辛しの様な辛い物、酢及び醬油の様に酢い物鹽からい物、多くの脂肪を含んでゐる食物等は何れも聲を惡くする。

紅塵萬丈の巷、閉め切つて空氣の流通のよくない部屋、乾燥し過ぎた或は餘り濕り過ぎた空氣中。などで呼吸するのはよろしくない。風邪をひいた時に聲の啞れることのあるのは、聲帶が充血して厚くなり、其振動が惡くなるためであります。

鮮明玲瓏な聲を得やうとするには夜間の睡眠を充分にし、新鮮なる空氣中に生活し、身體を淸潔にし、衣服を輕暖にし、新鮮淡泊なる草木肉類を食とし、精神を純潔高尙にする。

鼻腔、口唇、齒、舌、口蓋、咽喉、喉頭、氣管、肺神經などの病氣はすべて聲を惡くするか、不明瞭にするか、或は全く聲の立たぬやうにする。

種痘の話（續き）

醫學士　河野衛君述

痘苗

種痘に用ふる痘苗—疱瘡の種—には種類が色々あります、一體牛にも痘瘡がありますが、此れは本來牛の痘瘡では無くして、人間にある天然痘に牛が偶然感染したものであろう、卽ち天然痘は元來人間に發生したもので、之れが牛に感染して、牛痘といふものが出來たのであろう、といふ事に今日はなつて居ります、そこで種痘に使ふ痘苗は一つは、牛の痘瘡毒を取つて之を人に植える卽ち牛痘苗といふのがあります、それから次には、人間の天然痘毒を牛に植えて、牛痘瘡を發せしめ、此の牛から、痘瘡毒を取つて人間に植えるのがあります、之れは牛化天然痘苗と申すものであります、所で今日世界各國で用ひられて居りますものは、牛痘苗であります、此牛痘苗に又種類がありまして、一は牛痘瘡の毒を人間に

植えて、人間に出來た痘疱から汁を取つて之れを又他の人に植える、之れは久しい間用ひられたものでありまして、人化痘苗と申すものであります、併しながら、之れは、人から人へ植えて行くのでありますから、色々の病氣例へば、結核黴毒皮膚病のやうなものを移つす危險があり、實際之れ等に感染したものもあつて、甚だ不都合でありますから、之れを用ひぬ事になつて居ります、それで其次に出來たものは、再歸痘苗といふものであります、之れは、牛痘毒を取つて、人間に移し、人間から、又牛に植えて、此牛から痘苗を取つて、人に植えるのであります、さて此れは、牛から牛へ植えて行つて種を造るのでありますから、幾代も重ねて牛の體を通過すると、毒力が次第に弱くなつて來ますから、此時は、又人間の痘疱から種を取つて、牛に植えて行くのであります、此再歸痘苗は外國で盛に用ひられて居ります、日本では明治三十四年迄は此れを用ひたものであります、所が此痘苗は、常に種を人間から取らなければならぬといふ不便があり、且つ手數が掛つて、製造に費用が掛る、急いで澤山造るといふ時には間に合はぬ事があります、そこで傳染病研究所の梅野博士は、熱心に此痘苗の事に就いて研究せられまして、遂に、人體を借らずに、純粹な牛痘から、痘苗—完全なる最も進歩した效力の大なる痘苗を造る事を案出せられ、成效したのであります、それで之れは純牛痘であります、今日日本で用ひられて居る痘苗は、梅野博士の考へ出された所の完全なる純牛痘なのであります、此れは有力にして、安全な痘苗で、製造の費用が以前の半分で出來その上迅速に澤山製造供給する事が出來るといふ事であります、斯くの如くに我國では、最も進歩して居る所の純牛痘苗が使用せられて居るのでありますから、吾々は非常に幸福な者であると謂はなければなりませぬ。

種痘の效力

は何年間位續くものであるか、卽ち種痘をして、善感したるものは何年間位免疫性を具へて居るもので

あるかと言ふに、大抵先づ五年間位は確かであるけれ共、次第に免疫の力が弱くなつて十年も經つと全く無くなるといふ事であります、或は七八年間は免疫力を備へて居るといふものもあります、之れは各個人の體質に依つても相違のある事でありまして、一口に言ふ事は甚だ困難であります、それから、天然痘に罹つた者は免疫質を永く保存するものでありますけれども、終身之れを備へて居るものではありませぬ、アバタの立派にあるものでも種痘をして善感したものが中々にあります。

種痘の時期

季節は四季何れでも宜しいのでありますけれ共春と秋とが一番良いのであります、小兒の年齡は生後七十日以上六ケ月の間が一番宜しいのであります、此時期には、體質健全で、抵抗力が強いからであります、痘瘡の流行時には早く種痘を濟ませて置かなくてはなりませぬ、それから一度植えて善感しなかつた時は、度々種痘して、善感する迄は、行はなければなりませぬ。

種痘時の注意

種痘を受けに行く時には、前日に湯に入つて、身體を清潔にし、衣服は清潔なものを衣て、そうして種痘を受けるのであります、種痘をすると、ドウ言ふ具合になるかと申しますと、針を刺して植えた所に種痘後三日目或は四日目當りから、赤いものが出て少し腫れて堅くなり、次には此赤い結節に水疱が出來て、其周圍には赤い輪があり、次第に大きくなり六日目位になると、件の水疱の眞中が少し凹み込んで、八日目位になると、水疱は膿んで膿疱となり黄色を呈し、形も大きくなつて來ます、此時腋の下に疼みを覺え、其所にある淋巴腺が腫れる事もあります、又熱が出て來て、大人でも、小供でも少し氣分が惡うなつて來ますが、十一日目當りになると、膿疱は次第に乾き始めて、次第に褐色となり、次には黑色の痂皮となりまして、三週日目から之れが剝け落ちて、跡に瘢痕を殘します、是れは初めて種痘し

たもの〻普通の經過でありますが、二度目に種痘して、善感したものでは、日數が斯くの如くに長く掛りませぬ、一週間か十日位で濟むのがあります、又膿疱も小さいものであります。

そこで、種痘をしてからは、其後の注意は甚だ大切であります、種痘して出來た痘疱は甚だ大事に之を保護しなければなりませぬ、有效な種痘を受けても注意を怠ると、無效に終る事があります、種痘を受けた後は、食物は、普通の通りで差支はありませぬが、可成消化の善い食餌を取り、酒類を飲まぬやうにしなければなりませぬ、それから衣服は殊に淸潔なものを著し、妄に不潔のものに近寄らぬやうにする事であります、それから種痘した局部は殊に大切に保護し、痘疱を破壞しないやうに注意し、一切醫師の示指する所に從はなければなりませぬ、それから入浴の事でありますが、入浴はしない方が宜しい併し、腰湯を使ふ位の事は注意してやれば差支ありませぬ、殊に小兒には入浴をさせてはなりませぬ、腰湯も可成控へて置いた方が宜しうあります、湯を使ふと、風を引き易いものでありますから、常に風を引かぬやうに要心しなければなりませぬ、それから體の運動には注意を拂ひ、接種をした所を擦つたり、押へたり抔する事のないやうに注意しなければなりませぬ、それから種痘をしてから、醫師の示定した日には必らず醫師の診察を受けなければなりませぬ、一回種痘して善感しなかつた場合には決して安心は出來ませぬ、それは善感すべき筈の人でも、其人の一時の身體の具合其他の事情で、不感に終る事がありますから、必らず再び種痘を受けねばなりませぬ、それから種痘してから其經過中に熱が出たり、或は他の腫物が出來たり、凡て身體に異狀の起つた事に氣の附いた時は、直に醫師の診察を受けなくてはなりませぬ、是れから私は

天然痘の豫防

に就いて、心得うべき事柄を少し申し述べて置きたいと思ひます、天然痘は、恐るべき急性の傳染病で

ありまして、其病毒は、空氣に依つても傳播するものでありますから、實に危險であります、其他病者に觸るれば固よりの事、病人の用ひた品物衣類抔からも傳染するものであります、患家と交通すれば、之れに依つても傳染します、それ故に患者の發生した家との交通を絶ち、嚴重なる消毒を行はなければなりませぬ、そこで天然痘に罹ると、如何なる症狀を起すものであるかといふ事を少しく述べて見ますと、痘瘡の毒に感じたものは、九日から、二週間位經つと、寒む氣がして、熱を出し、頭が痛くて、腰が痛み、身體がだるくなつて來ます、或は嘔吐する事もあります、此時痲疹に似たやうな發疹の出來る事があります、そうして第三日又は四日になると、熱が少し下り痘瘡の發疹が出で來ます、是れは最初顏に出で、それから段々と全身に蔓延します、此れは始め水疱となり、次で化膿します、此時又熱が上り、甚だ危險な症狀となり、不快の臭氣を發します、そうして此膿疱は次第に乾き始め、痂皮となり遂に之れが剝け取れて跡に瘢痕を殘し、小兒は、此化膿熱の時に、屢々死亡します、其他に種々な重い症狀を呈して來ますけれども、長くなりますから玆では申し述べませぬ、さて病毒は、患者の身體に出た水疱と膿疱との中にあるものでありまして、此れが乾燥したものは毒力を永く保つて居りますから注意しなければなりませぬ、痘瘡の豫防としては、上來說き來つた通りに、種痘を勵行する外はありませぬ、種痘は最も理想的な方法でありますから、何人も努つて種痘する事を怠つてはなりませぬ。

衛生生活の一日（續き）

東京醫科大學　A、B、君

第四十四　何時に就寢すべきか

何時に就寢すべきかと云ふ事は、人々の日常生活の狀態に由つてそれ〴〵異なるもので有つて、思ふ樣に一定したり變化したりする事は困難で有るかも

知れませぬが、兎に角何時に寢るにしても、凡そ時間を定めて置く事は必要で有ります、就寢時間の定まつて居ると云ふのは、つまり其人の日々の仕事の計畫が定まつて居る所以でありまして、換言すれば其人が毎日規則正しい生活を送つて居ると云ふ證明に成ります。規則正しい生活と云ふ事は一身及一家の上に非常に必要な事で有りまして、萬般の規律も之れに由りて行はれ、小兒の敎育、一家の經濟も之れに由りて完きを得るので有ります。其他健康の側から見ても規律的の生活は大に意味が有るので有りまして、神經衰弱だとか、胃腸の病とか、風邪と云ふ樣なものは、不規律な生活が原因と成る事が多いので有ります。斯かる次第で有りますから、就寢の時間等も成べく一定した方が好いので有ります。併し乍ら婦人方は家庭に於ては矢張其主位に在るに非ずして、副位に在るので有るから、主人たる人を差し置いて、自分勝手な時に寢に就くと云ふ譯には參りますまいが、大體主婦が其考で居るのと否とは大なる差が有ります。主人や主婦は遲く成る樣な必要が有ても子女や雇人は一定の時には寢に就かしむる事が出來ますから、一家の秩序と健康の上には非常なる利益で有つて、其樣にして居れば御主人の方でも成べく就寢時を定める樣にお成りだらうと思はれます。次に何時に寢るかと云ふ問題で有りますが、之れこそ家々の勝手で何とも致方は有りませぬが、衛生上から申せば夜は成べく早く寢ねて朝は成べく朝寢をしない樣にするのが大切で有ります。農家の人が健康なのは其運動の爲で有る事は勿論で有りますが一つには又早寢早起と云ふ事も原因に成つて居るので有らうと思はれます。早く寢ると云ふ事もつまりは睡眠を滿足さすと云ふ事と朝寢を仕度く無いからと云ふ事に歸著するので有りますから、之れを定むるには先づ何時間睡眠すべきかと云ふ事が根本と成ります。何時間睡眠する必要が有るかは、其人の身分職業に由つて違います、劇しく頭腦を使つて居る人は長く頭を休めねばならぬ事は理の當然

で有ります。學者の說も種々有つて、或人は一日二十四時間を三分して八時間を睡眠、八時間を娛樂運動、八時間を勉强の時として居る。或人は睡眠は六時間で充分だと云ひ、或人は四時間で十分だと云ふので自己の經驗に因る好成績を發表して居る。斯く種々の說が有りますが、要するに七時間以上が適當で、六時間以下では害が有ると云ふ說が多い樣で有ります。だから之れを根本として、人によつて增減する樣にしたら適當だらうと思ふ。昔の小學讀本に『朝は五時に起き夜は十時に臥す』と有りますが、此位が丁度好いでしやう、其季候晝夜の長短により五時のを六時七時とするも可、十時のを十一時とするも差支は有りません。

第四十五　就寢の準備は如何にすべきか

就寢の準備として記さねばならぬ事は澤山有ります其內寢室や夜具等に關した事は別に項を新にして述ぶる事と致しまして、先其身體上及精神上の事を述べて見ませう。

第一には身體を淸潔にする事で有ります。之れは甚だ大切な事で身體が不潔で有ては決して安眠の出來るものでは有りません。足が汚れて居るとか、手に物が附いて居るとか、背に汗が出て居るとか、云ふ樣な事は橫に成つてからも大變氣に成るもので有りまして、其爲に樣々の惡夢に襲はれたり何かして眠苦しいもので有ります。かゝる時には悉く洗ひ去り拭ひ取つて氣持をよくして寢に就かねばなりません、殊に就寢前に一回身體を冷水で摩擦して眠ると云ふ事は衞生上大變宜しい事で有ります。身體中全體の淸潔が必要で有りますが特に注意すべきは、第二に口中を淸潔にする事で有ります。食事毎に楊枝を使ふ方でも夕食後何か食物を攝取した時には其屑が口中に殘つて居りますし、楊枝を使はない方は殊に齒の間等に澤山附著して居りますから、之れを此儘にして寢に就ては夜間に口中の汚物が分解し腐敗して、齒を害し口中の病や惡臭を發する事に成

りますから、是非一度十分に齒を洗ひ含嗽をして寢る樣にせねば成りません。朝は口を洗はぬ樣な人は今は殆んど無いだらうと思はれますが、朝洗ふと同じ樣に、毎夜洗ふ事を習慣として置く樣に致し度い。

第三に衣服類は一切著換ふる事も必要で有ります、氣候の溫な時は其樣な事は有りませんが、冬に成るとそろ〳〵著換ふるのが寒いので肌に著けたものは其儘で寢る樣な方も有り、甚しきは下著迄も其儘で牀に入る人も有るさうですが、之れは隨分亂暴な事で有ります、いかなる寒い時にでも肌に著けたものは一切著換へねば成りません、只著換る其瞬間だけは冷いが、著換へて後には大變心持ちのよいもので有ります、殊に寢衣は成べく度々（殆んど毎日の樣に）日に當てる樣に致し度い、日にあてゝ置けば著換る時に氣持がよいから、左迄苦に成るものでは有りません。尙寢衣の事は詳しくは後に申しませう。

次は精神上の準備即ち

第四に安心して寢に就く事で有ります。心に不安が有ては決して安眠は出來るものでは有りません。併し安心と申しても難かしい意味に於ける精神の慰安と云ふ樣な事を申しては、お話は宗敎に入らねば成りませぬから、其事は別としまして、茲には只其日其日の仕事に就ての安心のお話で有ります。今日せねば成らなかつた事が出來無くて、あれやこれやと殘つて居ては、寢る時にそれが氣に成つて不安を生ずるので有ります、何某に手紙をやる筈で有たのに書くのを忘れて居た、明日に成ては用事が缺ける、誰某に遣らねば成らぬ物が有たにやら無かつた、明日では不義理に成る、お悅をやるのを忘れて居た、悔狀を出すのを怠つて居たと云ふ樣な事が色々と頭の中へ浮んで來ては、益々不安に成つて眠られ無い樣な事に成ります。又他人に對する事のみならず自分一身や家庭の事にでも、せねば成らなかつた事を其儘にして就寐するのは、甚だ不快な事で有ります。併し乍ら人事は之れ極めて多忙で有りますから

成すべき事を少しも落ち無く成し盡すと云ふ樣な事は餘程困難で有りまして、何等かの方便によらねば成りません、それ故此爲に何か帳簿でも作つて置いて、心覺えに日々すべき事を書いて置くので有ります、つまり一日中の計畫を前夜の就牀に作つて置き、それによつて一日の仕事を成し終り、若し殘つた仕事が有らば其夜の記帳の時に明日の計畫の中に記入して置く樣にして行けば、仕事は捗取り、義理は缺けず、手落ちは無く、心配も起らず、家の内に規律が立つて、幸ひなる家庭を作る事が出來る樣に思はれます。毎日日記をつけるのは大層面倒な事の樣にも思はれますが、一寸心覺えに書いて置くだけで有りますから簡單な事なので、習慣に成てしまへば何でも無いので有ります、此樣な日記の爲に特に羽仁もと子氏の主婦日記と云ふ帳面が有りますが、之れは此目的の爲めに甚だ便利で有ります。尚ほ序に申して置きたいのは、直接衞生上には關係の無い事で有りますが

第五に物の置場所を定めて置る事で有ります、夜間に出火急病其他變事の有つた時に、非常な狼狽をするのは此準備が足らぬからで有ります。殊にマッチ、ランプ、時計、衣類の如き早速の必要品を第一とし非常持退の必要なる貴重品の如きものは是非一定の所に置く樣にせねば成りません。物品の場所を一定して置くと云ふ事は就牀前の心得のみならず常にも必要な事で、一寸したものでも入れ所を一定して無い爲に忘れてしまつて、非常に時間を損し人に迷惑をかける事が有ります。印形の入れ所を忘れて配達人を待たせたり、財布を見失つて人に感情を害したりと云ふ樣なるは、度々起る事で有ります。話は横道に入りますが、出火の時の準備としては、以上申した外、先づ何を第一に持出すべきかと云ふ事を定めて置かねばなりません、之れこそ全く不意の出來事で有りますから、今晩にもある積りで用意して置く必要が有ります。非常に急なる場合には先づ何と何とを出せばよい、それには何に入れて出すべきか

例へば貴重なる帳簿類だけ出すとすれば、衣類の入つて居るあの行李をあけて其中に入れやう、其ひまも無くば枕元に有る晝の衣類の中に入れて負つて出やうと云ふ風に常々からちやんと決定して置いて、それを折々寝前に考へ出して置く事は必要で有ります。餘り馬鹿氣た事の樣では有りますが、火事を名物として居る東京等では、此位な考で居なくては成りません。

第四十六　寝室は如何に準備すべきか

人生五十年、二十五年は寝てくらすと云ふから、其二十五年の住家たる寝室の衛生は決して等閑に附すべきものでは有りませぬ。偖て寝室の準備としては先づ

第一に清潔なるべき事で有ります。何れの室でも不潔にて可なる事は勿論有りませぬが、殊に寝室では七八時間も通して何も知らずに居るのですから十分に清潔にして置かねば成りません。布團を敷く時にパツと塵の立つ樣な室は宜しく有りません。清潔な室だとは思つて居ても、如何なる惡い瓦斯がたまつて居るかも知れませぬから、是非一度寝前に換氣して新鮮な空氣を入れて置く必要が有ります。殊に用事をして居た室、客の來て居た室を其儘、寝室にする樣な時には必ず換氣せねば成りません。併し乍ら直接に戸外に接して居る方の窓から換氣する事は考物で有ります。外の濕氣や寒氣を呼び込む事と成るのですから却て有害が有ります、殊に雨模樣の夜や寒い時には注意せねば成りません、だから其反對の側の、直接戸外とは接して居ない方を開けて、換氣する方が適當で有ります。

第三に有毒の瓦斯を出すものを室内に置いては成りませぬ。昔西洋で殺人の目的で、壁に毒藥を塗り込んで置いて、其室内に寝る人を長い間に中毒の爲に終に殺して仕舞つたと云ふ話が有りますが、實に恐ろしい事で有ります。少量の有毒瓦斯でも、終夜吸

つて居れば、積り積つて其毒は大したものと成るので有ります。偖て此有毒の瓦斯を出すものには、種種の特別の藥品等の外、日々置かれるものでは、第一に前に申したランプで有ります、ランプの灯を小くして枕元に置く事は有害で有ります。次に火鉢を置く事で有ります、火鉢からは絶えず有毒の瓦斯が出て居る事は已に述べて置きました、之れは全く室外に出さねば成りません、殊によく赤く成つて居た炭を灰をかけて置くのは益々瓦斯の發生を盛ならしめて有害で有ります。次は植木活花の類で有ります植物の葉は人間の呼吸と反對し炭素を吸つて酸素を出すものであるから、之れを室内に入れて置く事は大變利益であると考へて居る人もありますが、之れは甚だしい誤解で、成程酸素を出すに相違は有りませんが、それは日の當つて居る間の事で、夜分には却て炭素を出すので有りますから、決して人の爲に成る事は有りません。且又當時は香の芳い草花等を室内に入れる事が流行しますが、之れも甚だ宜しく有りません。西洋花等の强い香のあるものは人の鼻に甚だしい刺戟を與ふるのみならず、實際有毒なものも隨分有ります。西洋のある若い男女は美しい情死をしやうと云ふので、あらゆる芳香の草花を集めて、小さい室の中に閉込つて、戀を語りつゝ其花よりの毒の爲に二人手を取つて目を閉ぢたと云ふ事實もある位でありますから、草花等を寢室に置く事はよく有りません。其他腐敗したものや惡臭のあるもの等皆注意して避ける樣にせねば成りません。

第四に溫暖なる室でなければ成りません。溫暖なる室を得る爲には、以前申した室内溫暖法によつて暖めるのも必要で有りますが、便利なのは日當りの好い室を寢室とする事で有ります。夕方迄日の當つて居た室を利用すれば室内は左程冷える樣な事は有りません、且又之れの利益は日當りのよかつた爲に、其室は自然に日光消毒が出來て居るから、病毒等の潛む事を許さない。其上又日の當る室はよく目立つから塵を捨てゝ置く譯に行かぬので、自然と掃除が

行届いて清潔に成つて居る、又今一つ日當りがよければ室が乾燥して居るから衛生上甚だよい、反之第五に濕氣のある室は不適當で有ります。日當りが惡かつたり、牀下に濕氣の多い所等では、健康上甚だ不都合で有りまして、脚氣だの、急性傳染病だのに罹り易い傾きが有るので、病氣除けでは無く病氣受けのお呪をして寢て居る樣なもので有ります。

第四十七　夜具は如何に準備すべきか。

第一に寢衣で有りますが、之れに關しては根本的に考への違つて居る人が隨分有りますから、特に御注意を願ふので有りますが世間では往々『寢衣にでもする』だの、『寢衣だから』だのと云ふ樣な語が行はれまして、寢衣だから何でも構はぬと云ふ樣に思はれて居る所が有りますが、之れは實に怪しからぬ話で、私は此寢衣だからと云ふ語を反對の意味に使つて、寢衣だから大事で有る、寢衣だから注意せねばならぬと云ふ風に考へ度い、と云つて決して寢衣に贅澤な物を使ふ樣にお勸めするのでは有りません、其衣類の原料は何でも宜しいが、絕對的に清潔にせねば成らぬと申すので有ります。寢衣だから粗服を用ゆると云ふのは結構で有りますが、寢衣だから人に見えぬから襟垢の附いたものでもよいと云ふ考へには全然不贊成なので有ります。晝の衣服は直接肌には著かぬもので有りますから、襦袢やシャツを度度洗つて居れば、著物の方はさう度々取換ふる必要は有りませんが、寢衣は直接に肌に著けるもので有りますから、出來るだけ度々取換へねば成らぬ、襦袢やシャツと全く同じ意味のもので有るから、それらと同じ位の日數で取換へねば成りませぬ、思ふに寢衣の洗濯は、夏季に浴衣を洗濯する位な割合に洗へばよからうと思ひます。此樣な次第で有りますから寢衣は是非單衣でなければ成りません、寒い時には袷や綿の入つた物迄も寢衣にする人も有りますが之れでは洗濯に不便で有りますから、悉く單衣にして、寒い時には之れを何枚も重ねて用ゐる樣にすれ

ばよいので有ります。斯くて重ねた時には肌に附いて居る方から順に取換へて洗ふ様にすれば、常に清潔に保つ事が出來るので有ります。次に必要な事は寢衣を毎日日光にあてる事で有ります。之れは前にも申しましたが、布團を干すよりも一層簡單な事で有りますから、習慣として干す様にすれば、夜分に之れを著た時には實に心持ちよく、衛生上にも甚だ有益な事で有ります。

第二には布團で有ります。先づ布團を敷く時間の事を申しませう。牀を取つて直に其中に入つて寢る人が有るが、之れは宜しく有りません、何故かと云ふに、如何程掃除の行屆いた清潔なる寢室でも、疊の上の事だから、布團の様な重い物をばた／＼やれば塵の立つのはきまつた事で有ります、布團を敷いて塵の盛に立つた處へ入つて寢て、其塵を皆自分の鼻の中に吸込むのは餘り賢い方法とは申されませぬ、だから牀をとるのは、就寢するよりも以前にして、自分の寢處に入る時には最早塵等は無い様に致し度い。便利な方法は前に申した寢室の換氣と布團を敷くのとを同時にする事で有る、布團を敷いて塵が立つた時に換氣をすれば、塵を室外に出すにも便利で有ります。次に申す事は布團を敷く方向で有ります即ち何方枕に寢るかで有ります。之れには昔から傳說や迷信やが種々あつて一々判ずる事は困難で有りますが、何れ主として、溫度や、風位や、清潔の度其他は宗教上の意味等が加はつて居るのでありませう。兼好法師の徒然草には『夜のおとゞは、東御枕なり大かた東を枕として、陽氣をうくべきゆゑに、孔子も東首し玉へり』とあります、何か深い意があるのかも知れませんが、多分は前申した衛生上の關係が主と成つて居るので有らうと思はれます。だから枕の方角は、壁の方では無く、障子の方で晝間は日光の射して居た方が適當で有ります、併し其方から隙間の風が吹き込む様では宜しくありませんから障子の外には椽もあり雨戶も十分で、風の吹き入らぬ様に成つて居ねば成りません。反對に壁の方の側

では薄暗くもあり、冷でもあり、何となく陰氣で濕氣が有るから不愉快で、健康にも宜しからず、又濕氣蟲其他の小さい蟲等がぞろ〳〵出て來て、睡眠中に顔の上を匍ひ歩くなんかは餘り心持ちの好いものでは有りません。次には布團の材料で有りますが、之れは如何なるものでも差支は有りません、淸潔で暖でさへあらばよいので有ります。それよりも必要なのは、中に入れる綿で有ります、綿は成べく上等なのを用ひ度ひ、布團の溫さは綿によるので有るから、布團地に金をかけるよりも、綿に奢つた方が遙に衛生的で有ります。殊に綿がかたくては中にごろ〳〵した塊が有るなぞは禁物で有ります、暖く無いばかりで無く刺戟と成つて不眠を來す事が有ります。次は敷布で有ります。布團は左樣度々洗濯は出來ませぬから是非敷布を用ゐる必要が有ります成べくは敷布團のみならず掛布團の方にも布を全く蔽ふた方が宜しい、さなくばせめて襟の所だけでも是非布を附けて置いて度々取換へて洗はねば成りません。偖て敷布の材料には何が宜しいでせうか、之れには白の木綿で澤山です、高價なものでは度々洗ふに不便でも有り、又凹凸のある織物等は肌に刺戟を與へるから却て宜しく有りません、掛布團に當てる布も矢張白金巾位で宜しい、色のある美しい布を用ゐる人も有りますが、汚れ目が見えぬから不潔に陷り易いので有ります。偖て布團も敷布も、殊に敷布は度々日光に當てねば成らぬ事は勿論で有ます。

講義

衛生學大要（承前）

醫學士　河野衛君述

そこで榮養素の事は、上に御話し申しましたが、各〻の榮養素は、どの位の分量を要するかと申しますのに、此の量は、人の職業、年齢、體質、住んで居

る所の氣溫杯に依つて夫々相違がありますから、決して、一定しては居りませぬ、それで此の榮養素の分量を定めるに、は色々な人に脂肪、含水炭素、蛋白を與へて、身體の榮養の有樣を見て定め、或は健康な人の喰つて居る食物から此の含水炭素、脂肪、蛋白の量を計つて定めるのであります、ホイトといふ人の調査した所では、大人一日に蛋白質一一八・〇脂肪量五六・〇含水炭素五〇〇・〇瓦を取れば宜しいといふ事でありますけれ共、人種、職業杯の相違に應じて加減しなければなりませぬから、之れを以て規則とする事は無論出來ませぬ。

吾々の食物は、可成色々の種類の食品を混じたものが大切であります、食物の種類の少いのは宜しくありませぬ、一體吾々は、上に申し述べましたやうな蛋白、脂肪、含水炭素を十分に身體の中に取り込まなければならぬのでありますが、食物の種類が例へば一種のものであれば多量を食せぬと其榮養の所要量を取る事が出來ませぬ、動物性の食物なれば、少量でも、蛋白と脂肪とを取るには十分でありますけれ共、含水炭素を取らうとするには、動物性の食物であると、大分大量を食しなければ、所要量を取る事が出來ませぬ、又植物性の食物であると、含水炭素が多量に含まれてありますから、少し食つても、所要の含水炭素を取る事が出來ます、それ故に動物性の食物ばかりでもいかぬし、又植物性の食物ばかりでも不十分であります、卽ち主に動物性食物から蛋白質と脂肪とを取り、植物性食物から主に含水炭素を取る事にすれば各〻少量で其目的を達する事が出來ますから、肉と菜とは必らず混じて食するといふ事が大切であります、菜食論杯と謂つて、野菜ばかり食つて居ればよいといふ人が無いとも限りませぬけれ共、實際に人身の生理、榮養の詳しい事を調査して見ると、そう單純な考へは起つて來ないやうに思はれます。

食物には榮養價といふものがあります、それは何々の食物は、人體に入つてドレ丈けの價があるか、卽

ち身體に入つて、吸收せられる量はどの位の割合であるかと謂ふのであります、此の榮養價を定めるのは、食品を化學の方法で分析して見て、種々なる食物の中にある榮養素の分量を計るのであります、例へば米の百分中には蛋白質が六・五八あるが大麥の百の中には、蛋白質が九・九七あるといふやうな事を分析の上で定めるのであります、然しながら是ればかりでは不十分でありまして、尚ほ此外に、吸收試驗といふものをやつて、何々の食品はドノ位體內へ吸收せられるものか、其吸收せられる量を計つてそうして榮養價が大きいとか小さいとか言ふのであります、茲に例を以て申しますると、前申しましたやうに米百の中には蛋白質が六・五八あつて、大麥百の中には、九・九七ありますから、化學分析上の結果ばかりから言へば、大麥の方が榮養價は大きくありますけれども、更に吸收試驗をやつて見ると、大麥の蛋白質の吸收せられる量は米よりも遙に少うあります、卽ち蛋白の含量は大麥の方が多いけれども、人體內に吸收せられる量は米よりも尠うあります、それ故に單に化學の分析のみで以て大麥の方が米よりも榮養價が優つて居るといふ事は出來ませぬ、それから食物といふものは多量に食ふと、却て身體內に吸收せられる事が惡いものであります、多食すると胃の中で食物が分解しまして、消化を妨げます、小兒に乳を飮ませるにも、多量に飮ませ過ぎたが爲めに胃や腸の病氣を起す事が中々多うあります、又小兒が飮んだ乳を吐くといふのも飮ませ過ぎたのに因る事も中々多く吾々の見受ける所であります、多量に飮み且つ食ふといふ事は、固より大切な事でありますけれども、量を過ぎると非常な大害を招くものであります。

食物は四時同一のものばかり取つて居ると自然厭きて來るものでありますから、料理を色々に換へたり食品を換へたりして、食するといふ事は大切であります、食物といふものは、器械的に食つては何の役にも立ちませぬ、うまいと感じ、滿足して食はぬと

利益が尠いものであります、これから食するときには、氣分が愉快で、面白くして居らぬといけませぬ、是れは食物の消化、吸收に大に關係のある事であります、自分の好きな食物であると、自然消化液の分泌が盛んでありますけれども、嫌な食物を食ふては大事な消化液の分泌が尠うありますから、食物の效能も自然尠うなつて來ます、一體食事をするのは、仕事をして少くとも三十分から一時間休んで後食事を濟し、食事の後も三十分から一時間位は愉快な談話杯して、休息し、後仕事に就くといふやり方が一番宜しいのであります、けれ共、人々の境遇に依つて、皆斯ういふ具合に行うて行く事は甚だ困難でありますけれども、食事の前後といふものは、身體も精神も、安靜にするといふ事は極めて大切な事柄であります、食するにもの言はずといふ敎へは如何に解釋したのが正しいかヨク私は知りませぬけれども、食事をする時には、默つて食はないで、愉快な面白い談話をして、心を快活にして食事するといふ事は、何れの點から言つても、甚だ大切な事柄であると私は信じて居ります、精神の狀態が、食物消化の上に著しい影響を及ぼすものである事も明白な事實であります、默つて濟し切つて食事をするといふ事は感服した事ではありませぬ、それから食事を急いでするのも極めて惡い事であつて、可成ゆつくりと、心を落ち附けて、充分に咀嚼する事は甚だ大切であります、昔の敎へでは、食事の事抔をあまり大聲で話しするのは上品でないかのやうに言ふたものであります、人は食ふ爲めに生きて居るのでは無くして、生きる爲めに食ふのであるとかいふやうな尤もらしく聞える事を好んで言ふ人があります、實際人は食ふ爲めに生きて居るのか、生きる爲めに食ふて居るのか、其邊の事は、私にはまだヨク分りませぬけれども、吾々が衞生的の生活をしやうといふには、食物の事に就いては、十分に攷究し、常に興味を持つて居らなくてはならぬ事であると私は考へて居ります、食事を樂んで、愉快にするとい

ふ事も、吾々の健康を保つといふ上に於ては甚だ大切な事項であります。

それから食物に調理法の大切であるといふ事は私が申すよりも、皆様の方がヨク御承知の事柄であります、食物に適當な調理を施しますと、食物が小さい切れになり、消化液がヨク行き渉りますから、消化がヨク行はれ、それを煮たり、燒いたりして調理しますと、食物に附著して居る黴菌や、寄生蟲の卵抔も殺されて了ひますからして、衞生上極めて大切な事であります、それから調理をしたが爲めに、芳香を放つ物質が出て食物の味が非常に佳良になつて來るものもあります、食物の調理に使ふ器は、鉛や銅で造つたものは害がありますから、使用してはなりませぬ。

それから食物の溫度といふ事に注意する事が甚だ肝要であります、其溫度は品に依つて、固より定まつては居りませぬけれども、餘りに冷いものとか餘りに熱いものは衞生上有害であります、冷い物を食つた爲めに、胃や腸の病氣を起す事は尠くはありませぬ、けれども時としては、病氣の時抔に殊更に冷いものを飮ませる事もありますけれども、此れは別の話してあります、普通の食物は可成體溫に近いものが宜しいのであります。

衞生學の目的は、疾病を豫防するばかりでは無くして、人々の身體の抵抗力を强くし、不幸にして病に罹つても、十分に病に對して、抵抗して行くやうにするのが目的である事は嚢に御話し申して置きました、此目的を達するには、人の榮養に意を注ぎ、合理的の榮養法を講ずるといふ事を極めて大切な事柄であります、それ故に病に罹つた場合抔には、單に藥を飮むばかりでは、決して病は治るものではありませぬ、必らず此れと同時に食餌といふ事に注意しなければなりませぬ、病人に向つて醫士は盛に何々のものは食つてはならぬ、何々を食ふのが宜しいと說法しましても、中々に守られぬものであります、兎角病人には、何や彼と食はしたが宜しいといふの

で、素人はヨク色々なものを食はし、それが爲めに病が一向治らぬといふやうな事は日常私共の實驗する所であります、如何に立派な藥を飲んでも、食物の用心をして頂かぬと、藥の效力は一向に表れぬものであります、それに食物の方は、醫師の言ふ通りを守らぬで置いて、色々な不平は隨分耳にする事でありますが、此れは甚だ遺憾に思ふ所であります、病氣でも殊に胃腸の病と來ては、食物の攝生といふ事が甚だ大切であります、食物の攝生が出來ぬやうでは、藥を飲む甲斐は更に無いのであります、衞生を知りたい、衞生に意を注がうとして居る方々は、此點に篤と御承知を願ひたいのであります、是れから私は種々な食品に就いて、簡略に御話しを致しましよう。

獸肉

は歐洲では盛に用ひられて居ります、日本ではズット昔は用ひられたものでありますけれども、佛教が傳來しましてから、肉食といふ事が衰へて來ました、併し今日では肉の需要は中々に多くなつて來たのであります。

肉は、出來る丈け脂肪を去つて分析して見ると、肉百分の中には水分が七十五分、含窒素物二十一分、餘脂肪二分、鹽類一分餘であるといふ事であります、併し是れは無論大體の所でありまして、肉の種類に依つても大なる相違がありまするし、又肥滿したものと、瘦せたものとでは甚しい差違がありますから、一概に申す譯には參りませぬ。

肉の效力は、動物の年齡、飼養法それから其動物の食物といふやうな色々の關係で相違がありますが大體の所を申しまするど、年齡の古いものと瘦せた動物の肉は、其味も惡しく、榮養の效力も少いものであります、それから肉は動物を屠殺したスグ後に食ふと、味が惡いけれども、死後一定の時間を經たものは、味も宜しうありまするし、又軟いものであります。

肉を調理しますと、其調理の方法に依りて、肉に變

化を生ずるものであります、煮たり、燒いたりしますと、水分を失ひます、その外固形體、鹽類も減少します、肉を煮ると、肉の成分は、汁の中へ出て行きますが、是れは煮方に依つて差があります、例へば水の中に肉を入れて、煮ますと、肉の成分を多く汁の中に入りますけれども、熱湯の中に肉を入れて之を煮るときは、汁の中へ肉の成分の出て行く量は尠うあります、何故かと申しますと、一體蛋白質といふものは、熱すれば固まる性質のものでありますからして、熱い湯の中に肉を入れますと、肉片の外側の方の蛋白が始め固まりますから、煮ても中の方の成分は汁の中に出で行く事が出來ませぬ、それ故に肉の成分を多く含む汁を得んと思ふ時には、水の中に肉を入れて、此れを煮るのであります、それから肉を燒きますと、芳香のある物質が出來ますから美味であります、それ故に煮たものよりも燒いた肉の方が味が宜しいのであります。

動物の肉の中には、種々な傳染病菌や寄生蟲それから病菌の産出した毒分を含んで居りますからして、斯ういふ肉を食ふて居ると人が病に罹る事が往々あります、傳染病の中で最も多いのは、先づ結核であります、歐洲では牛の結核は甚だ多くて、百頭の中に、五頭は之に罹つて居る、乳を取る牛では、殊に多くて、百頭の中、五十頭迄が結核に罹つて居る事があるといふ事であります、日本では遙に尠くて若し結核に罹つたものがあつても、主に洋牛であるといふ事であります、牛が結核に罹て居ても、始めの間は少しも分りませぬけれども、病が進んで來ると明らかに痩せて來ます、牛の結核を早く知るには、コッホ氏の「ツベルクリン」を注射して見ると、之れに反應しますから、ヨク分ります。

その外に脾脫疽といふ傳染病がありますが、結核に比べると、遙に尠うあります、之れは主に牛や羊に來る病でありまして、稀には、馬や豚にもあります、此れは脾脫疽菌といふ微菌の爲めに起る病であります。

寄生蟲では、旋毛蟲といふものがあります、是れは豚の筋肉の中に生活して居るものであります、もし人が旋毛蟲の居る肉を食ふときは、其幼蟲は、腸を貫いて、筋肉の中に入つて、旋毛蟲病といふのを起します、日本の豚には、旋毛蟲を發見せられた事はありませぬ、それから豚や牛の肉には條蟲の嚢蟲が居ります、此肉を食ふときは、人の腸の中で發育して、條蟲になります。

中毒で死んだ動物の内を食ふと、人も亦中毒する恐れがあります、西洋では動物を太らせる目的で、砒石を與へる事があるそうでありますが、此の爲めに死した動物の肉は無論有害であります。

肉を貯へるには種々の方法がありまして、冷い所に置くは最も多く行はれて居ります、其他鹽漬にしたり、或は燻肉としたり、或は乾燥せしめ、又は鑵詰にします、併し斯ういふ色々な方法がありますけれども、肉の味が惡しくなり、消化も惡しくなります。

肉の製品には肉越幾斯、肉「ペプトン」といふものがあります、肉越幾斯は始めリービヒといふ人が牛肉から造つたものでありますから、リービヒ氏の肉越幾斯といふのが有名であります、其他色々な人の造つた肉越幾斯があります、それから羊や馬の肉で造つた肉越幾斯もあります、液體の肉越幾斯もあります。

「ペプトン」といふのは、蛋白質を溶解性のものに造つた品であります。

鳥の肉は、獸の肉よりも、筋の纖維が細く密著し、脂肪は多いけれ共、筋纖維の間にあるのが尠うあります、野鳥は、飼養してある鳥に比べると、脂肪が尠い、鳥の肉は一般に消化の良いものであります。

魚肉、貝類肉、魚肉は其成分大體獸肉と同じであつて、消化も佳良であります、魚肉は、生時に毒物を持つて居るのがあります、殊に卵を産む時期に多いといふ事であります、腐敗すれば、獸肉と同じやうに、「プトマイン」といふ毒を生じます、又寄生蟲も

居りまして、鮹には絛蟲が居ります、蝦、蟹杯は腐敗すると、有毒物を造り、又寄生蟲の居るのもあります。

今鳥の肉と、牛肉、馬肉と魚肉、豚肉の百分中の成分を比較すると、左に示すやうな割合であります。

	蛋白質	脂肪	無窒物	灰分	水分
牛肉(牡)	二一・三九	五・一九	〇	一・七一	七二・二五
馬肉	二四・四九	〇・七六	〇	一・一七	七三・六三
鷄肉	一八・四九	九・三四	一・二〇	〇・九一	七〇・〇六
豚肉	一四・五四	三七・三〇	〇	〇・七二	四七・四〇

(以下次號)

質疑



問● 貴會益ゝ御隆盛賀し奉り候陳ば肺患者突然喀血多量に出たる際は如何なる療法宜しきか、若し醫者不在の時は素人療法としての應急手當を御敎示下され度、又喀血に對して如何なる療法が第一に時日久しきに渉らず止血の效を奏すべき哉此段併て願上候

山形縣北村山郡　阿部薫

答● 喀血に當つて醫士不在のときは應急處置として先づ第一に患者を閑靜なる室に仰臥せしめ胸部に氷囊を貼し絕對的に身體の動搖せぬ樣、又急に全身貧血を來すが如き高度の喀血なるときは枕を低ふして胸部にのみ氷囊を貼し四肢を溫め多量の食鹽水を飮ましめ急使を派して醫師の來るのを俟るべし、而して喀血に對して如何なる療法が最も能く奏效するやは素より患部進行の程度狀態に依て異なる故醫療及び藥物的問題は別として、患者は常に身心の過勞を避け熱性食餌を禁じ感冒に罹らぬ樣注意し其他一般衛生狀態に重きを置れなば之れ即ち醫療を補佐し喀血の豫防上缺くべからざる一大要件なりとす。

問● 前略御免下されべく候陳ば 私事一週間前より

○門のわきかゆく候まゝ田蟲藥をつけ候へども、かゆみとまり申さず、ひどくかき候はゞ水出で氣持惡しく外と違ひきまり惡るく醫師に診察もたのみ兼候間何か宜しきお藥御座候はゞ何卒御敎示の程偏に願ひ上げ候

東京芝の一會員某女

答● 右は諸種の原因から來ますが先づ多くは毛虱に原因するものにあらずやと考へられ又は他の寄生性皮膚病に原因する瘙痒にあらざるなきか、毛虱とすれば能く注意して見るときは其蟲體及び卵を肉眼にて見ることが出來ますゆゑ、若しそれとすれば毎朝、水銀軟膏を生毛の全部へ良く塗擦し夕刻に至り入浴の上、石鹸にて洗滌することニ回位致されなば殆んど退治することが出來ます、又かきこわしの部分には該部を清潔にせる後撒里矢爾酸亞鉛華澱粉を撒布すれば日ならずして全治します、荏苒治せざるときは醫師の診斷を乞ひて原因的治療をせねばなりませぬ。



○市内兒童の體格

東京市衛生課員の談に據れば市内に於ける兒童の體格は地方の兒童に比較して頗る見劣りせらるゝが其調査せし處を見るに東京市は强健三中等四薄弱三の割合にて地方は强健四中等五薄弱一の割合なるが其原因には種々あれども概ね運動の不足にあるが如し但し身長に於ては地方よりも市の方成績良好なれども胸圍は反對に狹く其の上地方兒童の如く身長體重胸圍が平均に發達せざるは境遇事情等の關係上已むを得ざる所なれども甚だ寒心すべきことに屬すれば市に於ても何等か救濟の方法を講じたきものなりしと云ふ。

○盲啞者と失官原因

東京市盲啞學校にて在校の盲生及び啞生の失官原因

を調査したるを聞くに盲生の失官原因は

生來	九	膿性血膜炎	一三
角膜炎	九	遺傳黴毒	七
麻疹	六	腦膜炎	五
痘	四	内障眼	三
外傷	二	急性腦膜炎	一
結膜炎	一	神經過敏	一
トラホーム	一	天然痘	一
神經萎縮	一	網膜炎	一
牛眼	一	不詳	二〇

にして膿性結膜炎に原因せる者最も多く生來、角膜炎之に亞ぎ又啞生は

生來	七七	腦膜炎	四三
打腦	一五	急性腦膜炎	一〇
外耳炎	八	神經過敏	四
麻疹	三	遺傳黴毒	三
腦病	三	腦充血	二
百日咳	二	流行性感冒	一
内耳炎	一	腦膜腫瘍	一
腦水腫	一	神經衰弱	一
心臟病	一	天然痘	一
種痘熱	一	外傷	一
不詳	二一		

にして七十七名の生來を最多とし腦膜炎の四十三名之に亞ぐを見るべく又啞生二百名中の四十五名は何れも近緣結婚者の產にして其内兩親の從兄弟なる者は男十四名、女十九名、再從兄弟なるは男四名、女三名、遠緣なるは男二名、女一名叔姪なるは男一名女一名なりしと。

○家庭の好模範

牛込區辨天町三十六番地近衛師團軍醫部長宇山道碩氏は當職に任せらるゝ迄軍隊糧食改良委員長たりしが理論上又は學理の上から種々の滋養分の要素を組立てらるゝや夫人祿子は之を實際に料理して先づ家庭に於て試驗せるなど内助の實を擧げつゝありしが今其の家庭の有樣を洩れ聞くに永年女中を廢し料理より應接又は何くれとなく夫人自身に取扱ひ十數人の兒女は或は庭掃除拭掃除便所の掃除雨戸の明け閉てに至るまで各々其の任務を定めありて仕事を競爭的に實行し少しも厭ふ樣子無きは珍らしき良家庭と云ふべし尙近頃二條公爵夫人治子の會頭たる大日

本高等女學會に招かれて希望の方に無料にて教授しつゝあり從つて講師も無報酬にて熱心に從事し其の往復も徒歩にて人車等を用ゐず講習を受くる人々をして益々其の德に服さしめつゝありと云ふ。

○衛生組合の美擧

掃除が屆かずば黴菌も出來從つて惡病も流行り始める位の事は誰れも知る事なれど其知りたる事を兎角怠り勝になるものなり此れを防ぐには惡疫の流行を幾分なりとも尠くし、個人衛生を心掛けさせんとの目的にて去る三十二年二月廿二日公布の府令に基いて各區町村にそれ〳〵大小の衛生組合といふものが出來たれど此組合とても矢張り日數の經過につれ、組長とか副組長とか名は喧しけれど其實横町の溝が溢れやうが家々の塵が溜らうが一向に取合はずペストでもコレラでも跋扈する有樣なるは先一般に何處の組合でもと云はるゝ樣になりしが中に麹町區飯田町の組合を設立以來七年一日の如く衛生事務を發展させつゝあり元來飯田町組合は麹町全區の大組合たるが組長は村島警視、副組長水谷氏にて三十五年四月大組合の手を離れ以來飯田町六丁と飯田河岸七ヶ町組合を造り井上豐太郎氏組長、久保川榮氏副組長となり其上更に顧問委員に八人の醫師理事一名書記一名等にて其中組長顧問等は無給にて協力衛生一切の事務を處理し居れり、折柄季節變りとて最も衛生の注意を要する時なれば玆に同組合の事務を紹介すべし。

組合の戸數は千七百六十餘戸衛生費の徴收方は規定通り建坪一坪に對し月二厘とし理事書記等は巡視法を設けて組合中を折々巡視し衛生吏と相謀つて市有の下水に到るまで仔細に注意し又地主家主に清潔法を講じ、二名の組合常傭人夫を指揮して横町や拔裏の溝渠へ塵取りなど怠る事なく取集めたる汚物などは市役所との交渉を經て假置場より船積するなど行屆きたるものなり去る三十七八年の如きは戰病死者遺族にして貧困の爲に病に罹るも醫師の診斷を請け得ざる向には施療券を交附して顧問たる各醫士が

治療に任じ必要あれば入院までなさしむる事を始めし以來當時にても猶一般住民の貧困者に對する施療をなし來たれりされればにや先頃の天然痘にまれペストにまれ是が豫防法に對しては八顧問醫も熱心に其れが爲に盡力し且折々幻燈などを利用して一般に衞生思想を注入し又は衞生講話をなす等他組合に見られぬ處置振りあり又同組合にては捕鼠買上に對する現金の引替を銀行の手に待たず組台にて取扱ひて一般の便利を計り居る由なるが實に感ずべき事共なりき。

大日本婦人衞生會記事

○本會五月例會

本月二日(土曜日)午後一時半より神田の共立女子職業學校内に於て例會を開き、先づ志立醫學士は「小兒の皮膚病」の題下に種痘の全身に及ぼすこと即ち種痘も亦他の部分に直接間接に傳播の虞れある所以を實例を擧て說明せられ、次に小兒の濕疹、アセモ、飛火、白雲、疥癬、禿頭、鮫肌、痒疹等の諸病に就て懇切に有益なる講話あり。次で富士川ドクトルは「身體と其保護」(前回の續き)先づ神經系統に就て人體の精神變性より形體の變性に及ぼし、耳、鼻及び乳の畸形、結核、近親結婚、老衰、退行變性等を學說及び實驗上より面白可笑く趣味ある講話を試みられたり、當日の聽講者は無慮百餘名なりしが同四時半過る頃散會せり、又出席せられし役員は左の如し

山口　貞子　高木　銖子　岸　澄子　中濱　芳子
岡田　德子　田村喜代子　濱尾　作子の諸氏(出席順)

○大日本婦人衞生會本支會
收支決算報告(自明治四十年三月 至明治四十一年二月)

但シ各支會ノ分ハ月分區々ナルヲ以テ單ニ四十年度トス

收入

一金七千五百參拾貳圓四拾四錢五厘

内譯

金五千六百七拾八圓四拾九錢六厘　本會
金七百貳拾貳圓〇參錢壹厘　新潟支會

金百四拾壹圓六拾錢〇七厘　山形支會
金五拾五圓參拾八錢六厘　茨城支會
金貳百七拾六圓〇壹錢　宇都宮支會
金四百六拾貳圓〇壹錢　高崎支會
金百九拾六圓九拾錢五厘　米澤支會

支出

一金四千百拾七圓六拾八錢七厘

内譯

金貳千九百拾參圓八拾參錢貳厘　本會
金四百九拾圓五拾四錢六厘　新潟支會
金九拾圓四拾貳錢五厘　山形支會
金四拾四圓六拾九錢七厘　茨城支會
金百八拾八圓六拾貳錢七厘　宇都宮支會
金參百貳拾五圓五拾八錢五厘　高崎支會
金六拾參圓九拾七錢五厘　米澤支會

殘額

一金參千四百拾四圓七拾五錢八厘

内譯

金貳千七百六拾四圓六拾六錢四厘　本會
金貳百參拾壹圓四拾八錢五厘　新潟支會
金五拾壹圓拾八錢貳厘　山形支會
金拾圓六拾八錢九厘　茨城支會
金八拾七圓參拾八錢參厘　宇都宮支會
金百參拾六圓四拾貳錢五厘　高崎支會
金百參拾貳圓九拾參錢　米澤支會

以上

○新潟支會例會

四月二十六日午後一時より新潟師範學校附屬小學校に於て當市婦人敎育會と聯合の上例會を開く、出席者二十餘名なりしが安埜耕野君は「家事經濟」矢野さう子の君には「正直といふに就て」の講話ありし由

新井古芳氏逝く

本會の爲に講師として盡力せられたりし新井産科病院長ドクトル新井古芳氏は過般來病氣の處療養效なく去月二十九日正午逝去せり氏は前年獨逸に留學し深く斯道を究め其名本邦の醫界に高く將來の造詣も推測られしに惜い哉此訃ありしは憾むべし嗚呼哀い哉、葬儀は去る一日午後三時芝西久保天德寺に於て執行されたるが會葬者は同業者其他數百名なりし。

○本會入會者

○事務所申込

●札幌區北二、東三、十　通常會員　町村せん子
●福井市豐島仲町一五九森田方　通常會員　小畑幸子
●信州諏訪郡岡一分林製絲場内　通常會員　井川ひろえ子
●芝區愛宕下町四ノ一　通常會員　大澤うた子

○諏訪なみ子紹介

●日本橋區蠣殼町三ノ一　通常會員　大久保きく子
●北海道後志國瀬棚村會津町　通常會員　進藤やす子

○横井忠國氏紹介

●臺灣臺南市西竹園街司令官々邸　特別會員　摺澤竹子
●臺南市老口街守備隊將校官舍　通常會員　坂千枝子
●臺南市郵便電信局第一號官舍　通常會員　速水ゑい子
●臺南市天地府街陸軍經理部官舍　通常會員　松村千枝子

○小山さかゑ子紹介

●臺灣恒春廳警務課官舍　通常會員　別府ちも子

○高田直子紹介

●松山市一番町勝山高等女學校内　通常會員　上野若子

○會員資格變更

●通常改メ　特別會員　吳みな子

○茨城支會入會者

○酒泉幹事紹介

●　通常會員　稻葉くら子

○山形支會員資格變更

●通常改メ　特別會員　姉川あや子

○轉居

●本所區岡柳原町三ノ十五へ　藤井すゞ子
●牛込區若宮町二十八へ　大井上ちかよ子
●赤坂區青山北町六ノ三十七へ　安村忠子
●麻布區霞町二十二へ　江頭米子
●豐多摩郡千駄ヶ谷村字原宿一七六へ　下田歌子
●秋田縣鹿角郡大湯村へ　諏訪なみ子
●神田區橋本町三ノ三へ　後藤はつ子
●牛込區原町三ノ七五へ　大木珠子
●大阪府西成郡豐崎村大字五六四へ　近藤こま子
●京都府下伏見稲荷町へ　郡山八重子
●宮城縣登米郡石越村へ　金たま子
●臺灣斗六廳下臺南衛戍病院斗六分院長官舍　土肥原喜保子
●秋田縣本荘町安田銀行内へ　古澤みれ子
●佐賀市水ノ口町欅小路渡邊流裁縫教授所へ　菅野ゆき子
●丹後國新舞鶴余部官舍一〇四號へ　芳賀喜多子
●小石川區大和町十八へ　松井もと子
●久留米市櫛原町三十四へ　土屋もと子
●横濱市山手通一二七へ　山下春江子
●臺南市老口街守備隊將校官舍へ　志賀きち子
●赤坂區青山北町一ノ八へ　藤田とよ子
●麻布區笄町二八へ　鹿島襲子
●麴町區虎ノ門内海運官舍へ　齋藤春子
●吳市和庄通三ノ八九へ　櫻井かをる子
●牛込區原町三ノ七五へ　大木珠子
●長野縣更級郡稻里村一三二へ　野池かい子

大日本帝國政府及佛、伊、瑞、白、加、黑、印諸國 專賣特許

醫師岡崎桂一郎先生發明

登録商標 DIGESTIN

ヂゲスチン

一名(蛋白消化素)

▲世界獨歩の「ヂゲスチン」は植物性にして諸種の蛋白質(肉類、膠質、牛乳、卵白、豆乳、纖維素)を各性に於て消化する腸胃の最新薬!!▼

●粉末壹オンス入 金貳圓廿錢
●同 半オンス入 金壹圓廿錢
●錠劑三十粒入 金參拾錢
●同 壹百粒入 金九拾錢

▲ヂゲスチンは獨逸の新研なる「岡崎菌」の分泌する最近發見の醱酵素なり

▲ヂゲスチンは食物の大成分たる蛋白質の消化不良に起因する疾病に對し

(一)既に消化薬と稱する「ペプシン」及「パンクレアチン」を用ゆるも効奏効なきもの
(二)胃腸疾患の爲め同化作用を營むべき胃液、膵液及び腸液中に消化醱酵素缺乏せるとき
(三)身體衰弱の爲め胃腸、液中に消化醱酵素の減少を來したる際

以上の場合に於て必要缺くべからざる消化の特效ある新薬なり

▲ヂゲスチンは蛋白質の測定材料たるゲラチンの百倍量を各性に於て約一時間以内に液化し顯著なる「ビユレツト」反應を呈す故に總ての滋養食料中に多量含有する膠質及生膠組織も亦容易に消化し得べし是に於て日本人の常食たる魚肉には膠質及生膠組織に富を以て本劑は克く之を消化し低級に分解して體力を補給すべし則ち日本人適切の要薬たる論を俟たず

▲ヂゲスチンは滋養品の主宰たる牛乳百倍量を僅かに十分乃至廿分間に溶化し次で「ペプトン」化せしむる效力を有す其に理想的の牛乳消化薬たり

▲ヂゲスチンは效力絶大なる新薬にして胃腸消化不良及一般腸胃疾患又は病後の恢復期等に消化機の勞苦を省減し不消化性の蛋白質物を完全に溶解するを以て健康の人も榮養を補給し病魔に抵抗する氣力を養ひ得べし

▲ヂゲスチンは全國有名なる薬店にて販賣す御便宜にて御購求を乞ふ

發賣元 東京市日本橋區本町二丁目 合資會社 圓城商店 【電話本局一四四三番】
電信略號【エンジヨ】
振替口座【貳四壹參】

販賣代理店 東京市神田區淡路町一丁目 風雲堂 後藤節藏 【電話本局壹〇九六番】
電信略號【〇フウ】
振替口座【壹〇壹六八】

最近發賣の豫告

●「ヂゲス」精 一名(蛋白消化液)

▲「ヂゲス」精は「ヂゲスチン」の水溶液にして醫家及び薬業者が水劑となし用ふるに適する而已ならず又總ての飲料に和し用ゆる爲め便宜上特製したるものなり

▲「ヂゲス」精の用法及び醫治效用は「ヂゲスチン」に些も異なることなし

●說明書は申込次第進呈

小兒を完全に
發育せしめん
と欲せば牛乳
に之を加へよ

インファンチナ

醫學博士弘田長氏曰く(上略)予も亦久しく完全なる小兒營養品を求めつゝある者の一人なり、而して坊間販く所のもの一長一短彼に可なるは是に否なるあり撰擇又撰擇絶えて我意に滿つる製品なきを慨したりき、然るに客歳官命を帶びて歐州諸國を巡回したる際、測らずも完全なる小兒營養品を得たり、これ即ちドクトル、タイン、ルド氏可溶性小兒食品「インファンチナ」なり(中略)其化學的集成を見たるのみにして既に本品が如何に適當に配合せられたるものなるかを知るに足る其消化性蛋白質に富めるとや、其含水炭素の大部分の可溶性なるとや、徒に多量の脂肪を含まざるとや、鹽類中にも小兒の發育に至要なる燐酸鹽類を適當に含むとや、何れも是等營養的人工製品を求むる者の理想とする所ならざるなし、而して更に之が用法を見るに小兒の年齢に依り一定量の牛乳と水とに和して用ゆべく定めたり、これ人爲の力のみを以てしては到底不滿足にして天工を奪ひ能はざるとを自認し、一半は天然物を以て之に充て其質を更めて天工に近からしめむと試みたるもの、即ち牛乳の性質を變せしめて人乳、就中小兒の生母の乳汁と同一ならしめむと欲したるなり、其考案の巧妙にして而かも實用上些の遺憾なき、寔に感嘆に値すと云ふべし、(中略)予も亦之を實驗したるに消化不良に罹れるもの又は現に下痢ある者の如き本品を用ゆるに依りて之を制止す

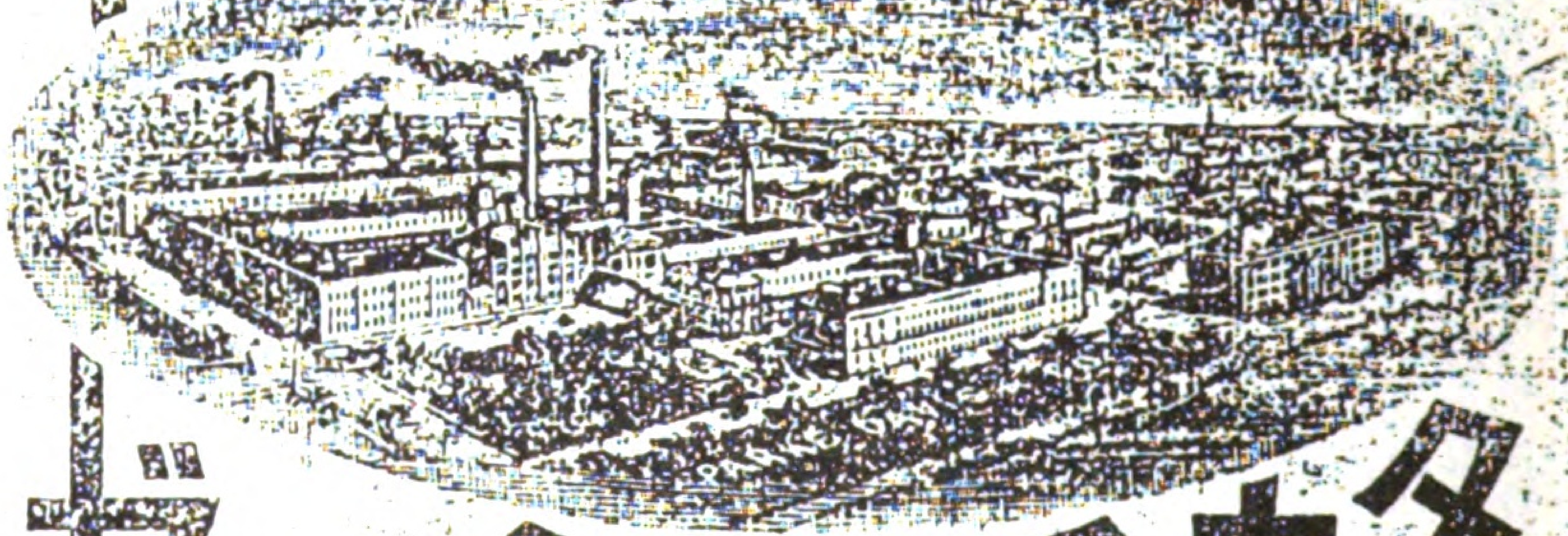
「インファンチナ」の分析表及用法用量は現品に附したり

「インファンチナ」は百瓦入三百瓦入五百瓦入の三種とし互れも罐入として發賣せり各地の有名藥舖にて販賣す最寄の藥店になきときは直接照會を乞ふ

發賣元 東京市日本橋區南茅場町二番地 **三共藥品合資會社**

(後附の二)

TAKA-DIASTASE



タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

高峯氏發見消化新劑

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶強度均一にして、又其効力永久不變なり。醫師及藥舖諸彥―模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徴し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

私立大日本婦人衞生會

米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衞生會米澤支會と稱し衞生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條　毎月一回（第二日曜午後一時より四時迄）講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種とし特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條　會員及其外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は賛成員となすべし

第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條　特に支會則に掲げざるものは本部の會則を適用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必ずや衛生と相俟て而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之が當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖ども徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を贊成する通常者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づつ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して來會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章
第三號
メッキ製拾貳錢、送費六錢

○第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黑塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）

東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤清之丞

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

明治四十一年五月十六日印刷
明治四十一年五月二十日發行
（毎月一回二十日發行）
印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍